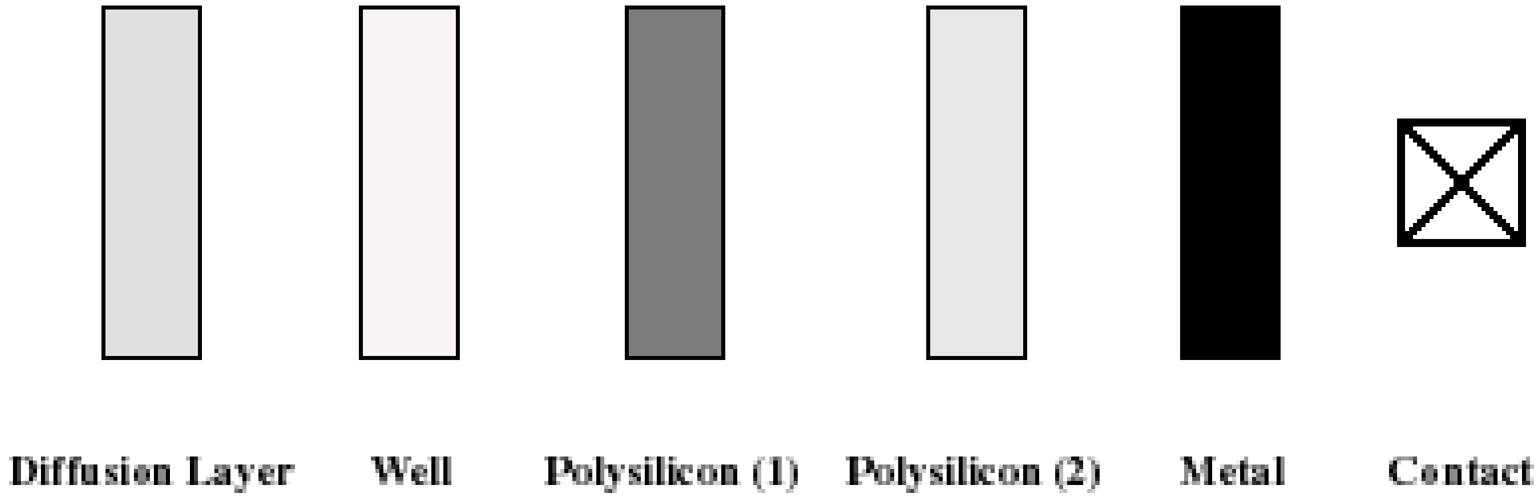
アナログ集積回路のレイアウト

特性の劣化を如何に防ぐか

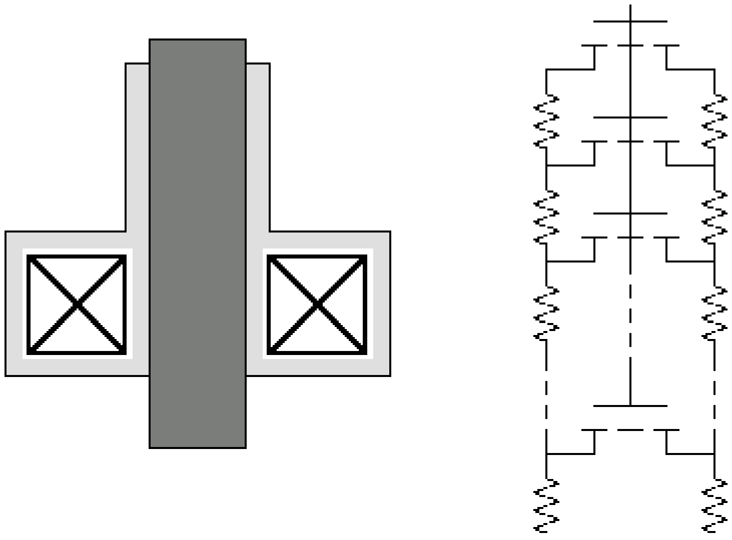
準備



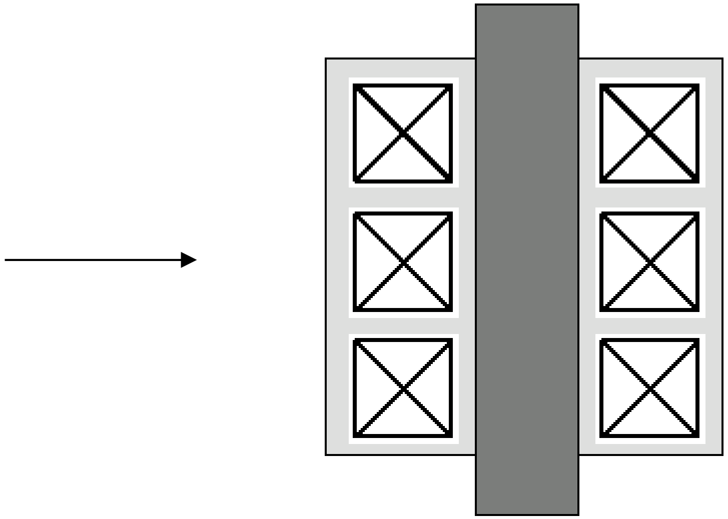
Diffusion Layer
Well
Polysilicon (1)
Polysilicon (2)
Metal
Contact

MOSトランジスタのレイアウト

基本レイアウト



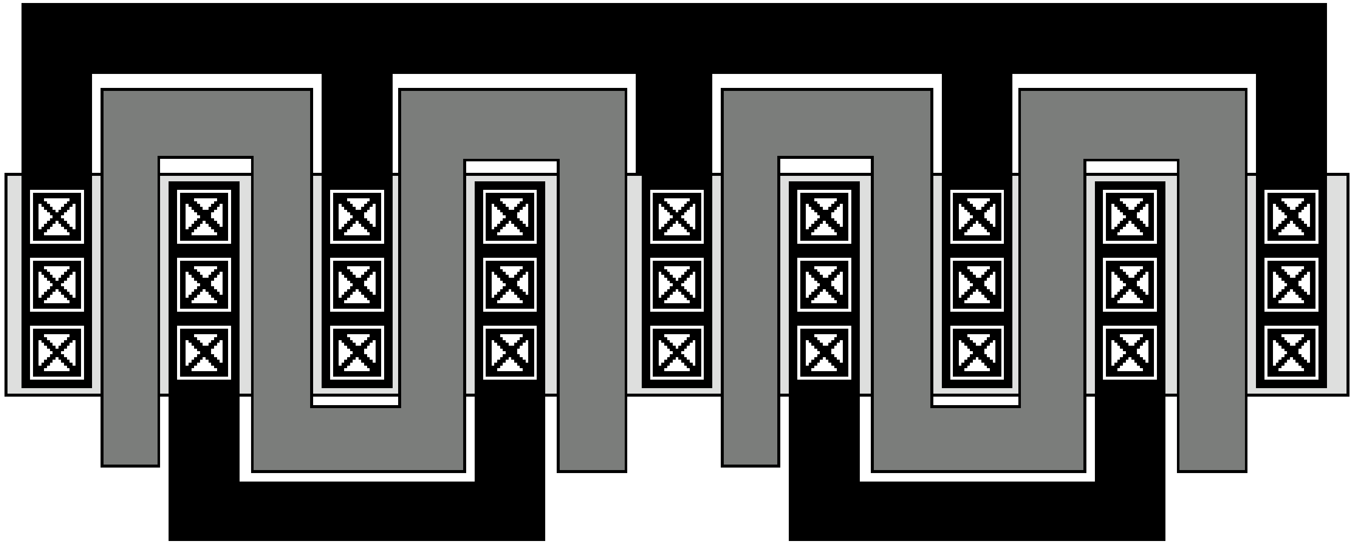
(a) (b)



寄生抵抗

チャネル幅の広いトランジスタ

差動対の場合



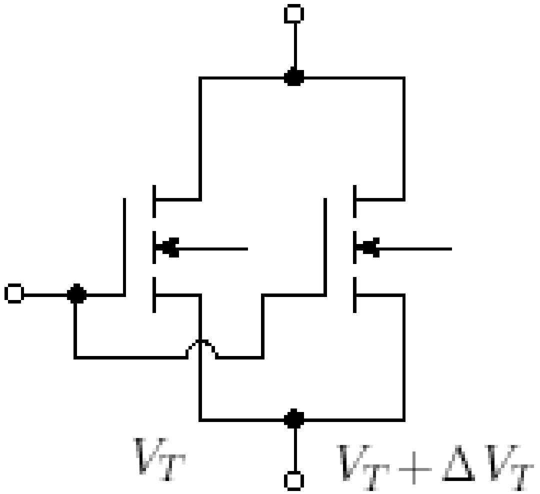
ドレインとソースの面積

$$\frac{n+1}{2n}(n\text{が奇数}),\quad \frac{1}{2}\text{と}\frac{n+2}{2n}(n\text{が偶数})$$

素子の整合(1)

素子の配置：　特性偏差を距離の1次式に近似

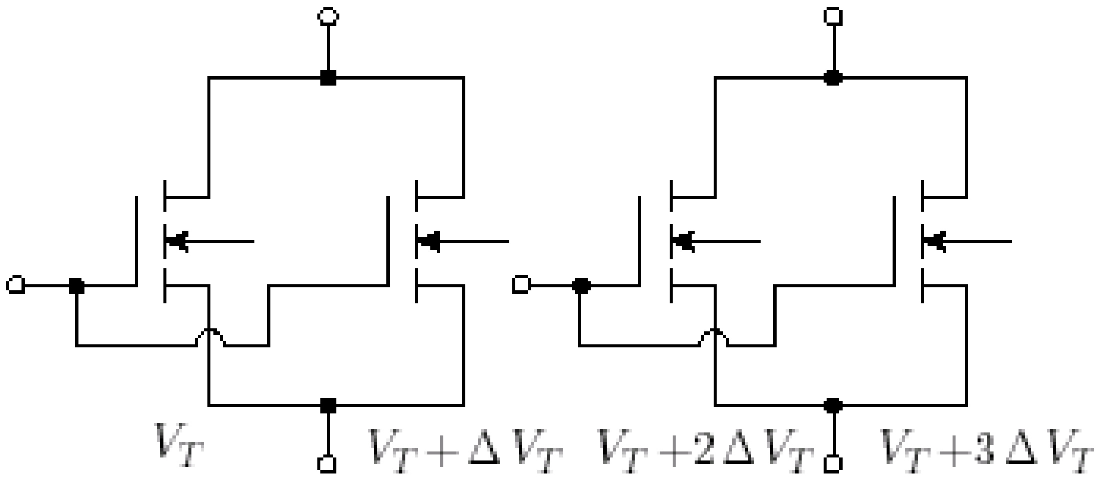
例:しきい電圧の整合



$$\frac{K}{2}(V_{GS}-V_T)^2+\frac{K}{2}(V_{GS}-V_T-\Delta V_T)^2$$

$$=K(V_{GS}-V_T-\frac{\Delta V_T}{2})^2+\frac{K\Delta V_T{}^2}{4}$$

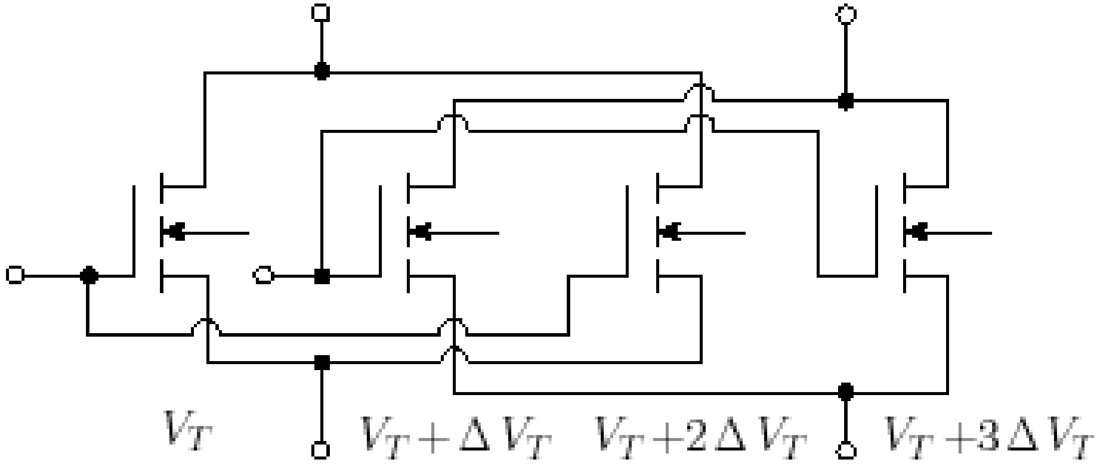
$$\approx K(V_{GS}-V_T-\frac{\Delta V_T}{2})^2$$



(a1) (a2)

(a1): $V_T + \frac{\Delta V_T}{2}$

(a2): $V_T + \frac{5\Delta V_T}{2}$



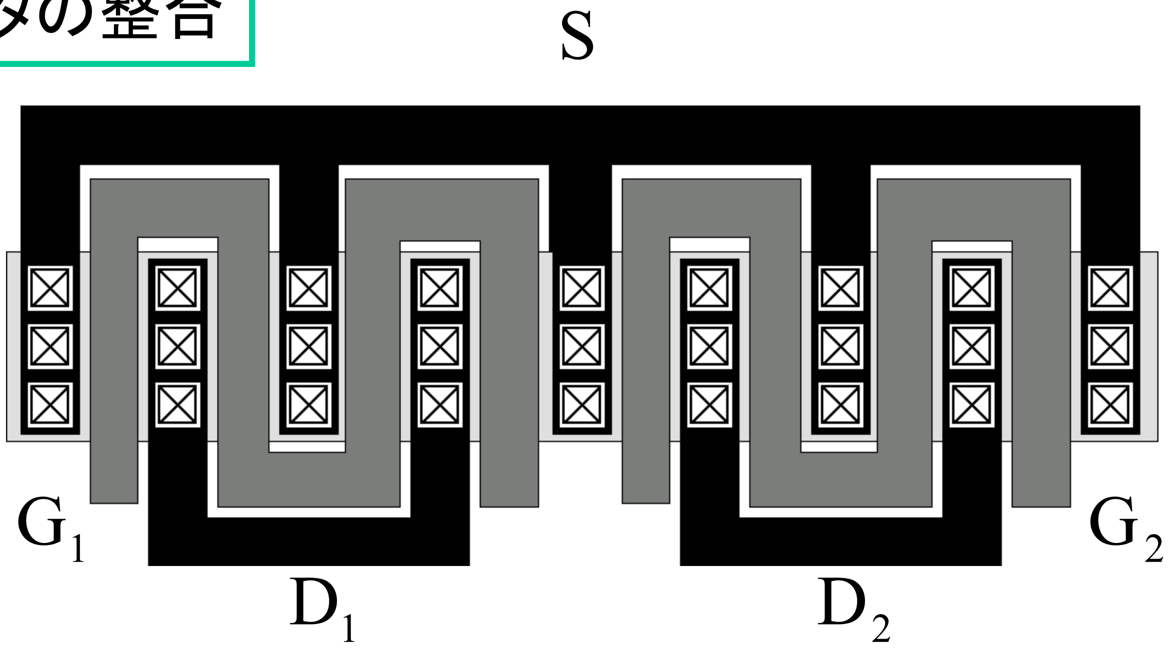
(b1) (b2)

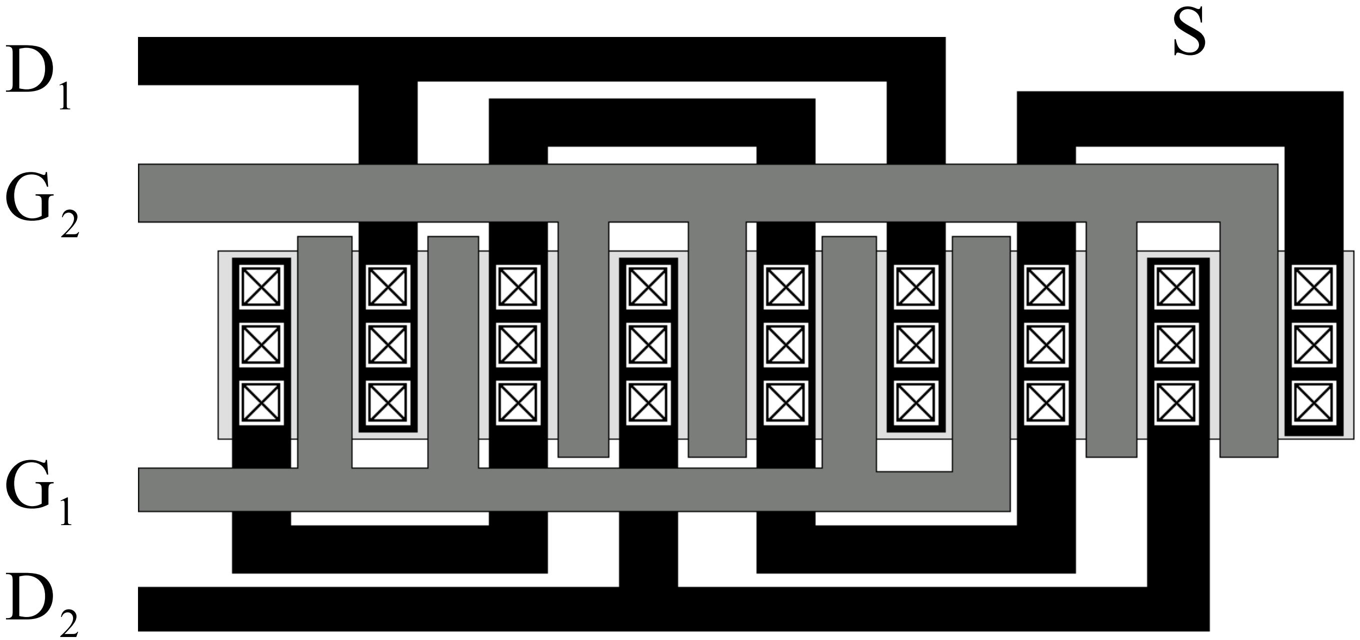
(b1): $V_T + \Delta V_T$

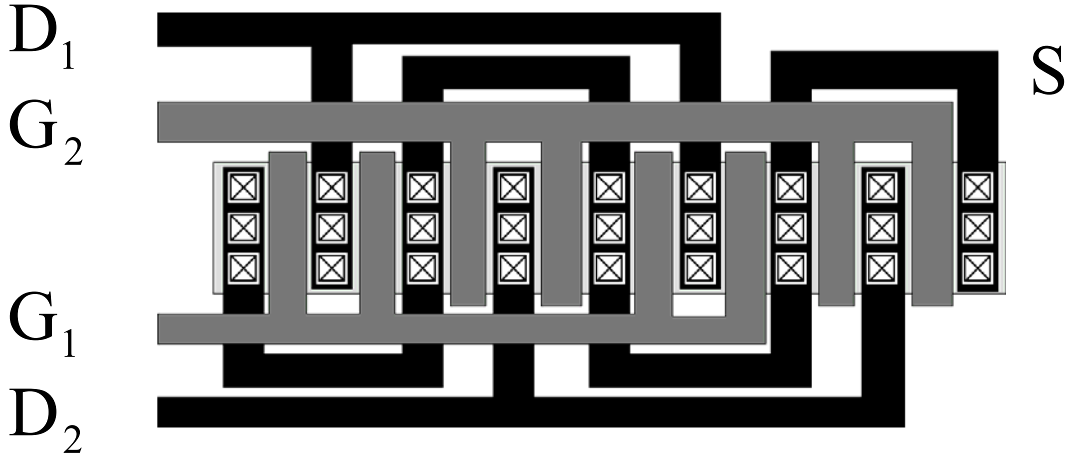
(b2): $V_T + 2\Delta V_T$

Interdigitize

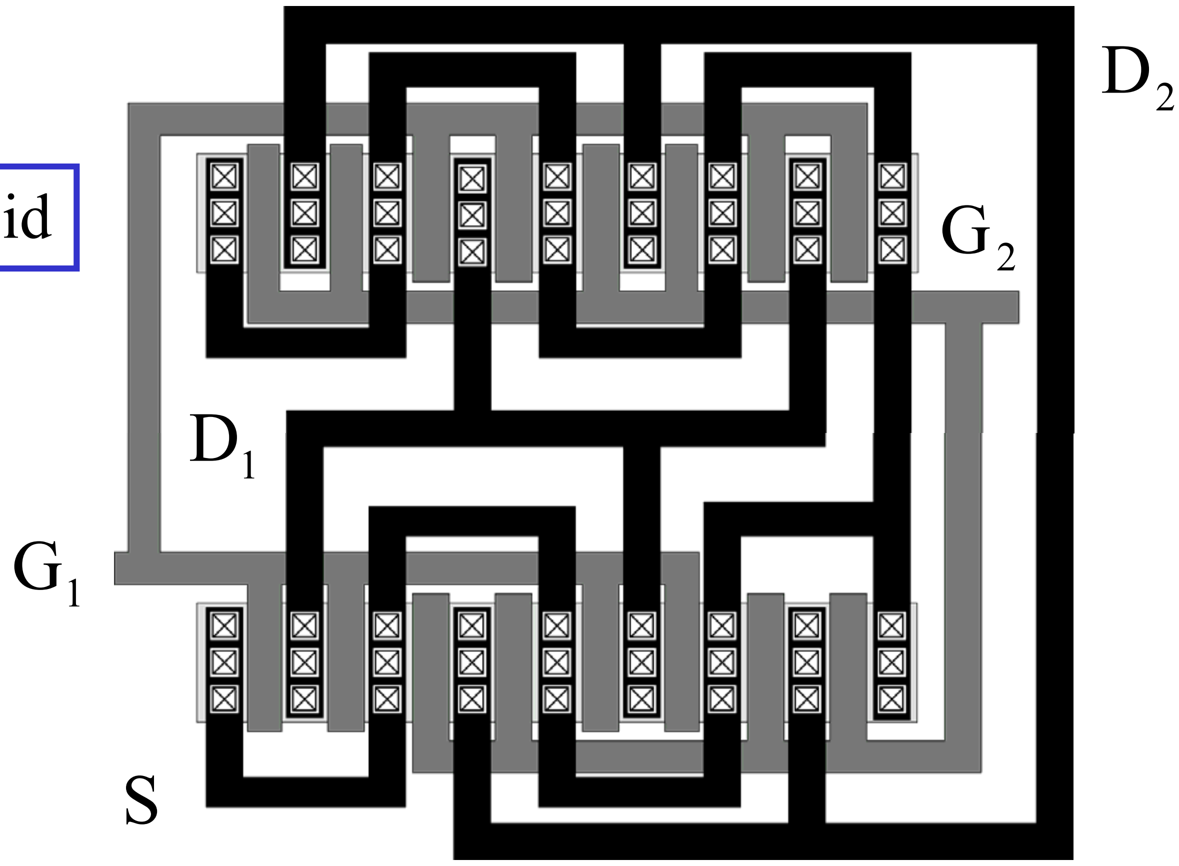
トランジスタの整合



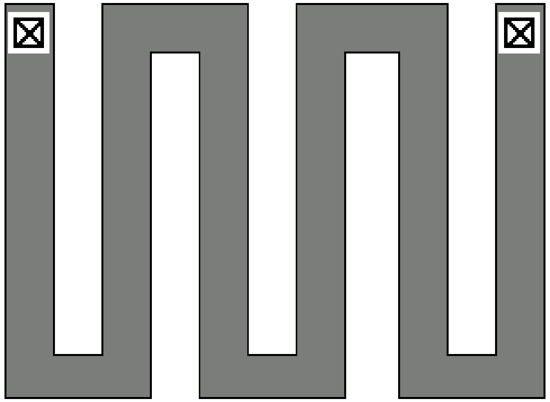




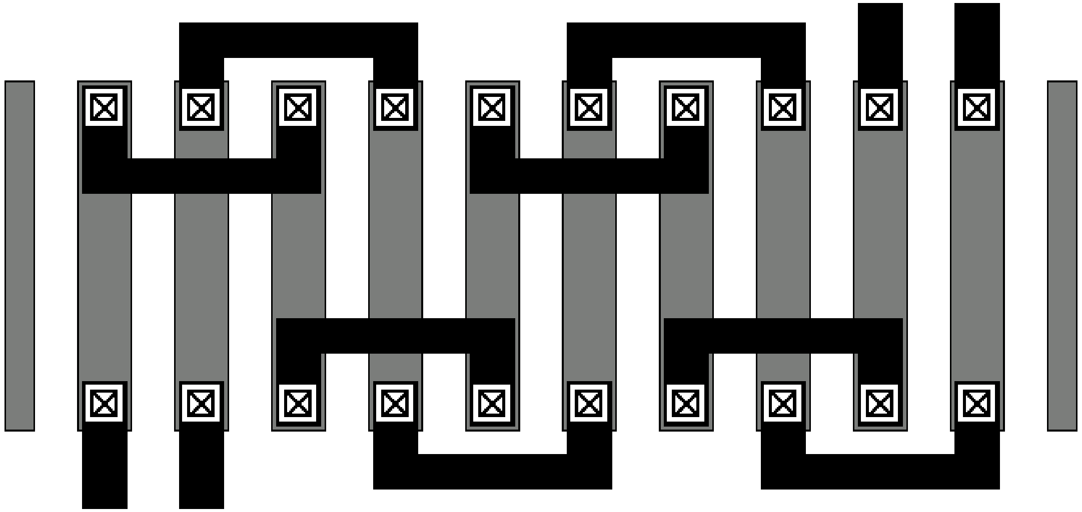
Common Centroid



抵抗のレイアウト



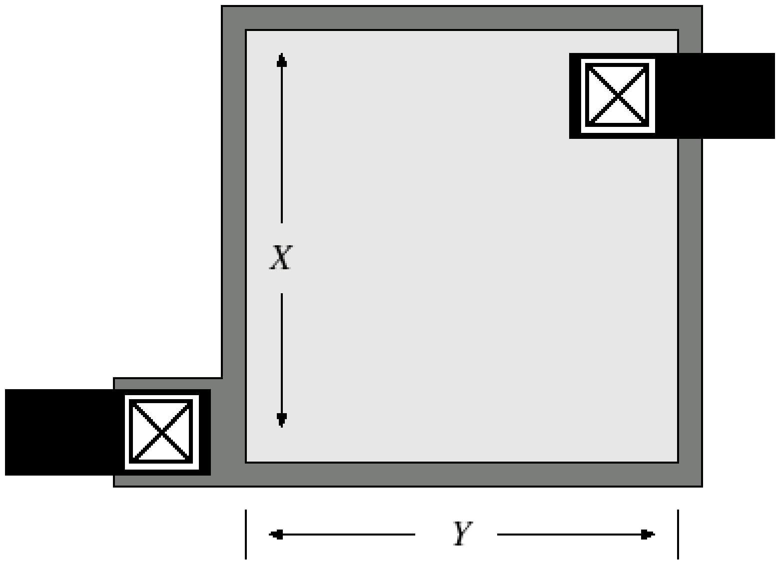
抵抗の整合

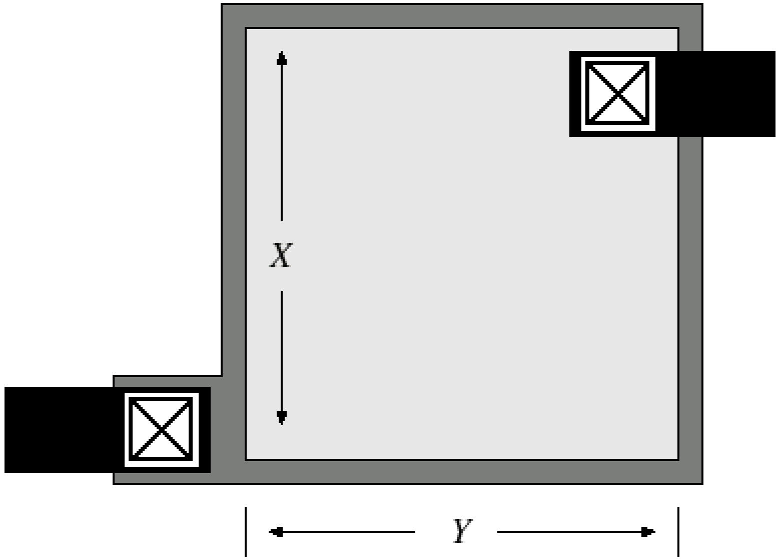


素子の整合(2)

周辺効果：　ダミー素子の配置

例：容量のアンダーカット ΔU





$$A_{eff} = X(1-2\Delta U)\cdot Y(1-2\Delta U)$$
$$\approx XY - 2(X+Y)\Delta U$$

誤差低減: $\dfrac{XY}{2(X+Y)}$を大きく

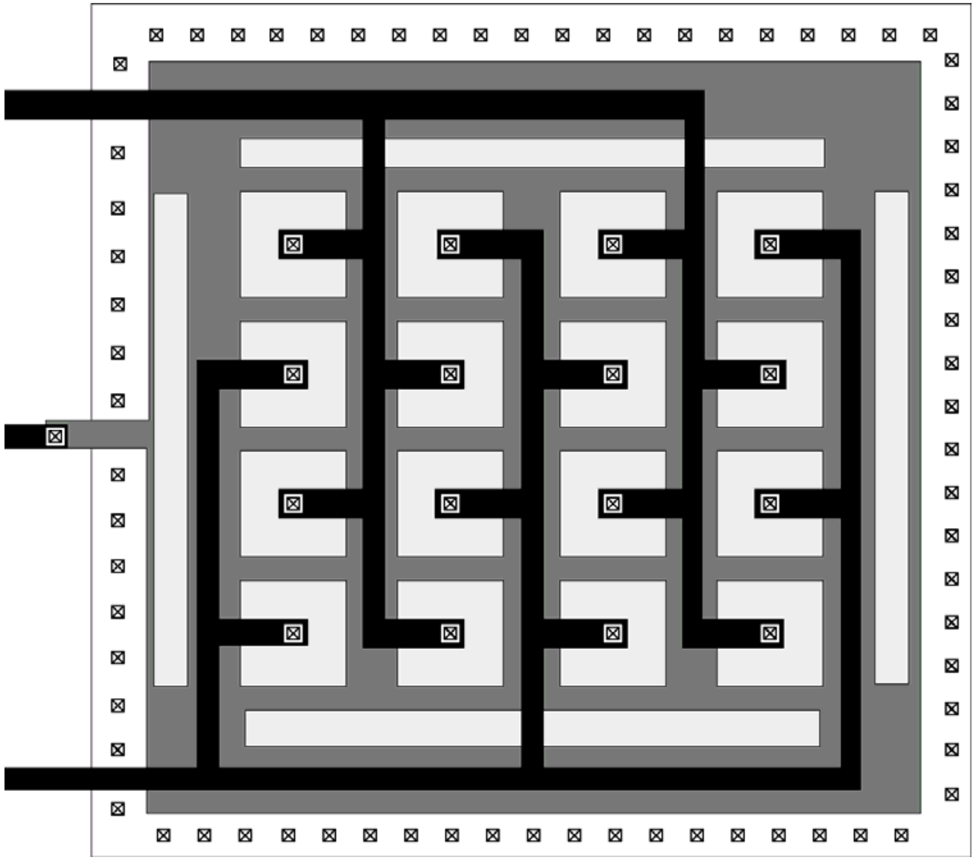
容量の整合:

$$A_{eff1}.A_{eff2}=X_1Y_1-2(X_1+Y_1)\Delta U.X_2Y_2-2(X_2+Y_2)\Delta U$$

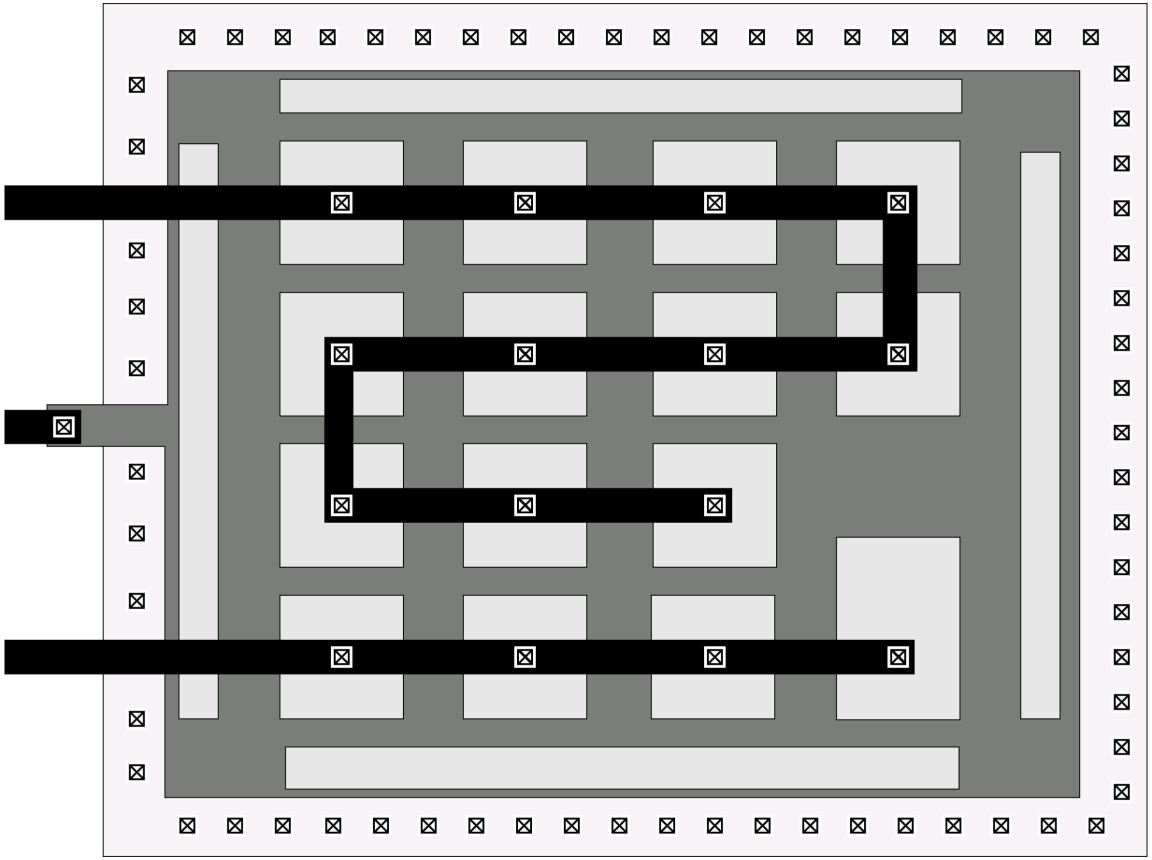
$$\boxed{A_{eff1}.A_{eff2}=X_1Y_1.X_2Y_2}$$

$$\boxed{A_{eff1}.A_{eff2}=X_1+Y_1.X_2+Y_2}$$

コモンセントロイド型レイアウト



単位容量によるレイアウト



配線

太い配線：

- 配線抵抗は減少
- 寄生容量は増加

ゲート間の配線：高インピーダンス→雑音の混入

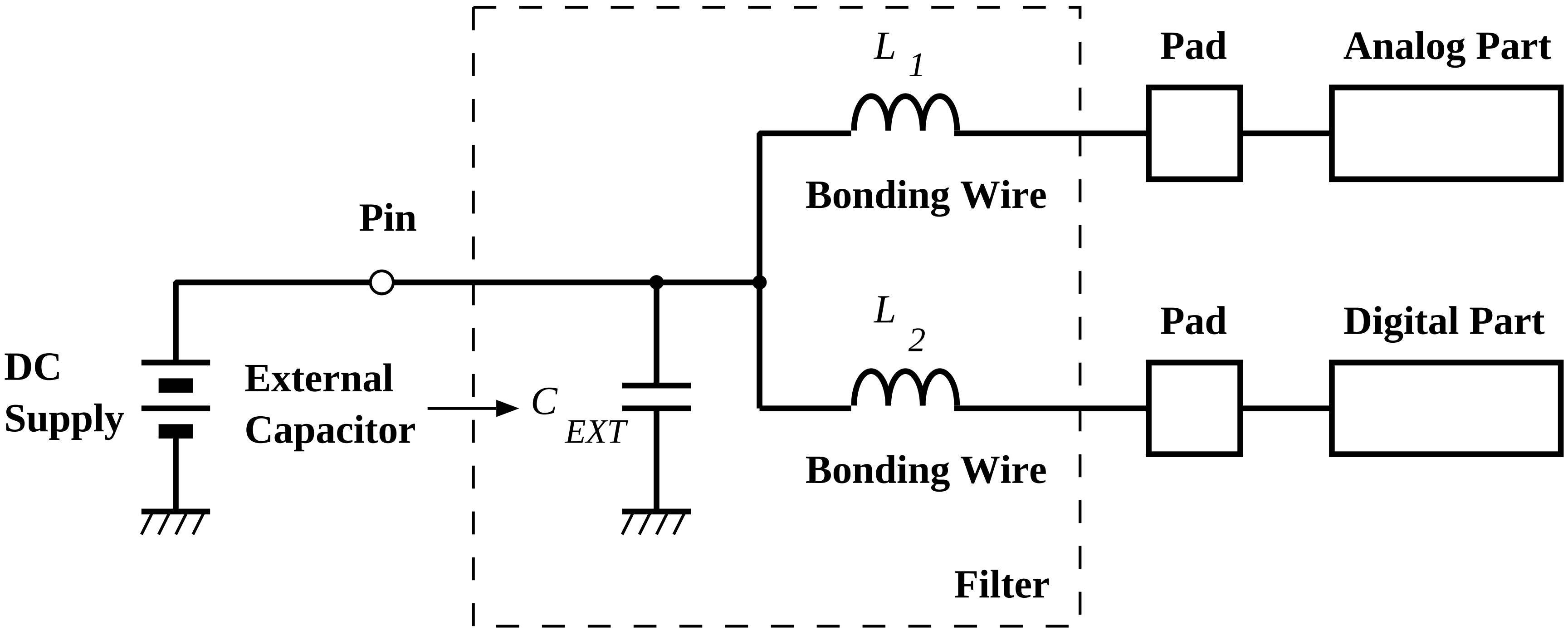
↓

他の信号線との交差の回避

ボンディングワイヤ：インダクタ（1mm≒1nH)

ボンディングワイヤを用いたディジタル回路からの雑音低減

電源からの供給電流：数百万A/sの変化→数十から数百mV

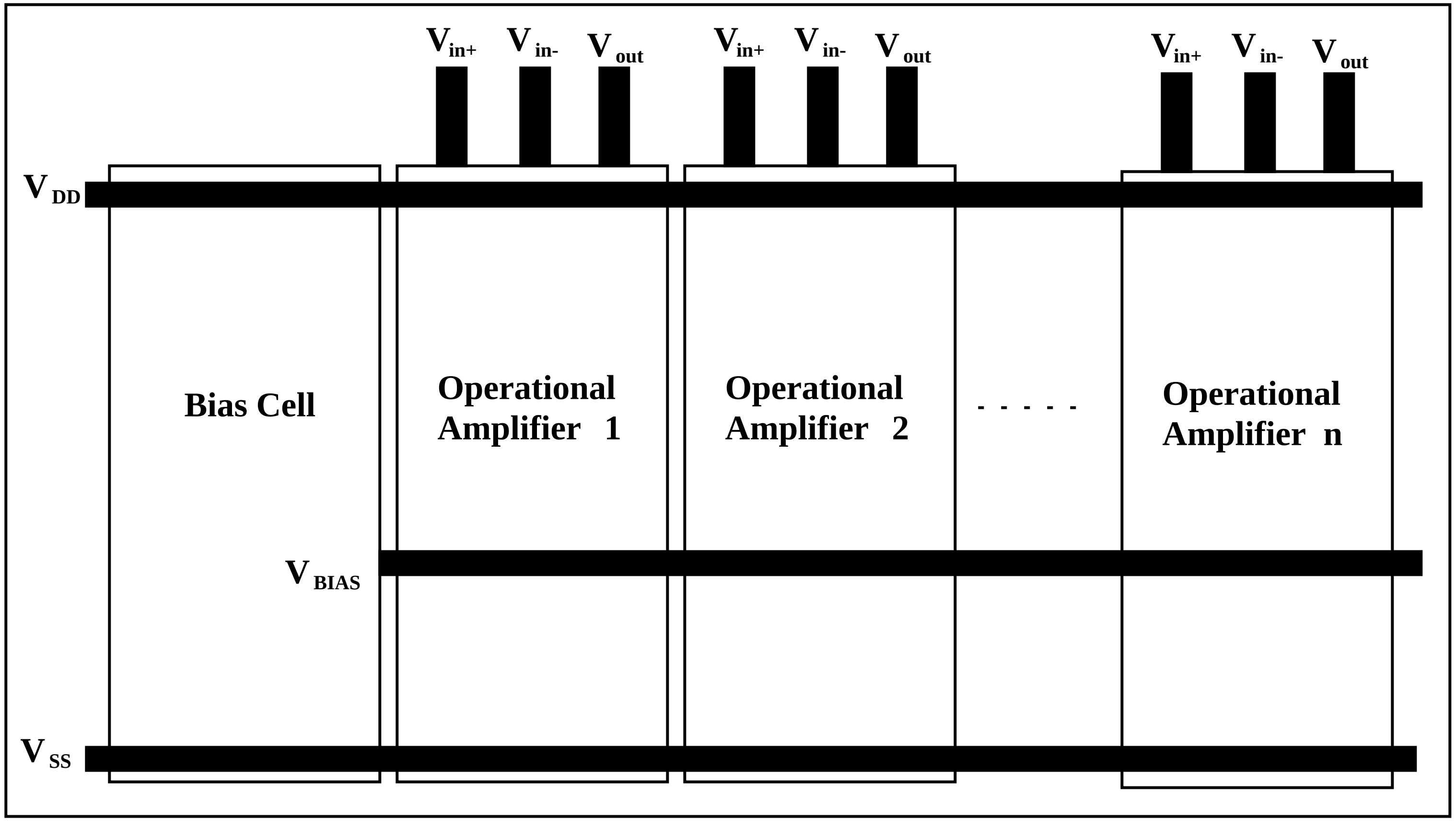


アナログ回路のフロアプラン

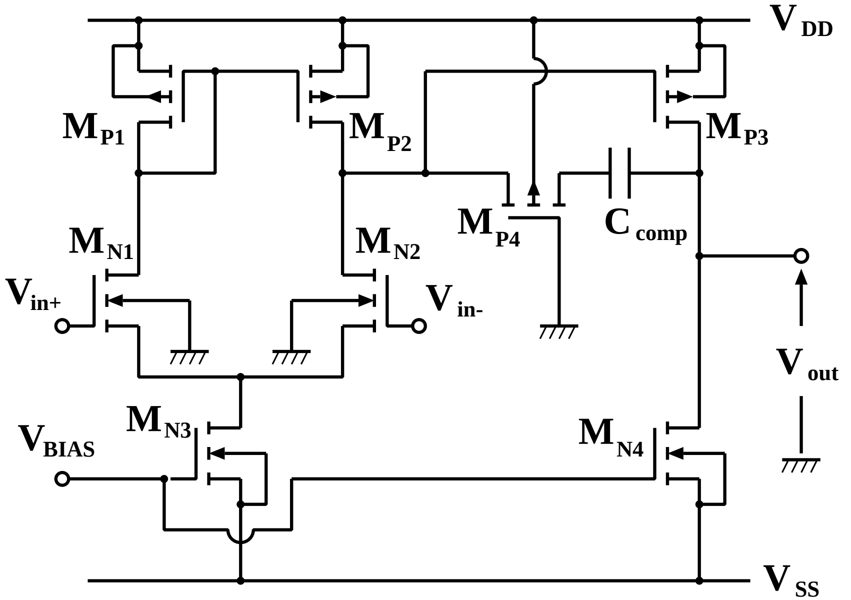
基本方針

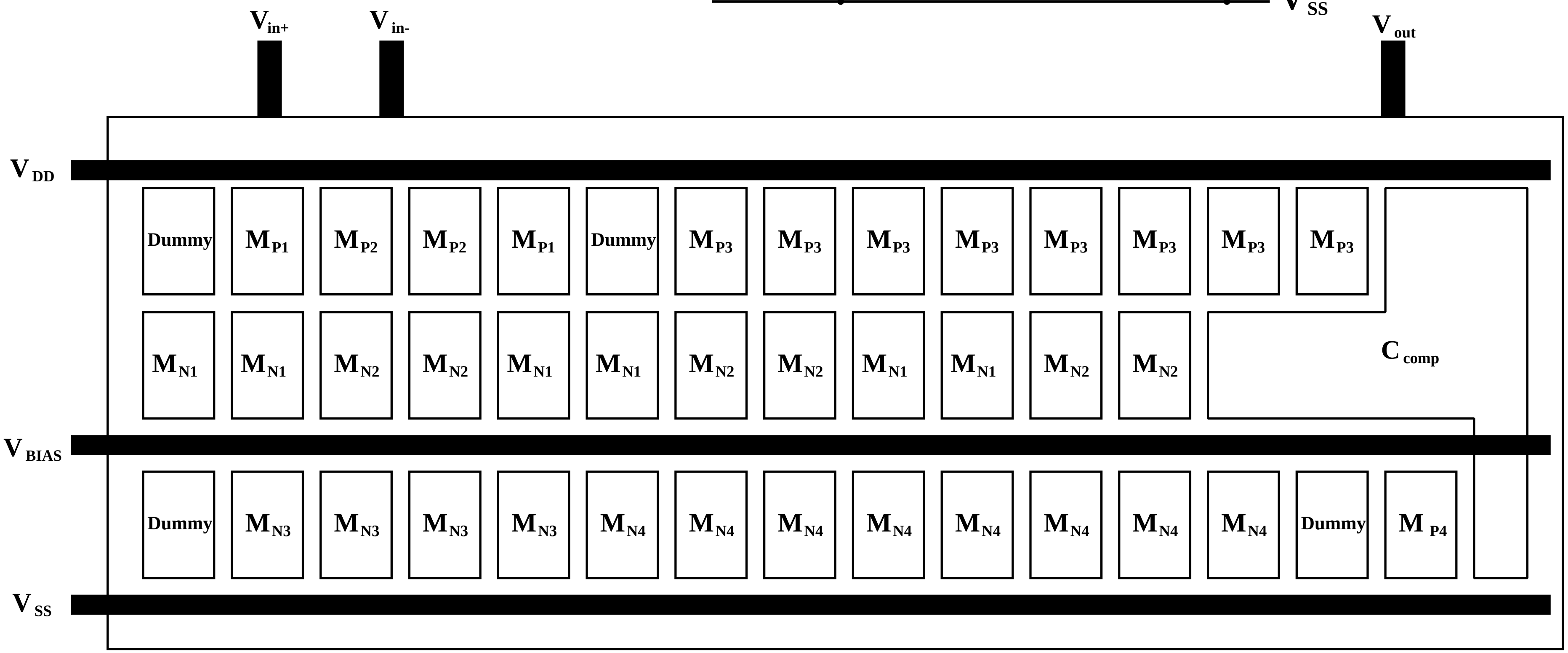
●同一方向にトランジスタを配置
●トランジスタの対基板容量の低減
●回路の対称性を利用した対称なレイアウトによる
　オフセットの低減
●大電流部分の金属配線の使用
●シールドの多用

複数の演算増幅器のレイアウトの概要

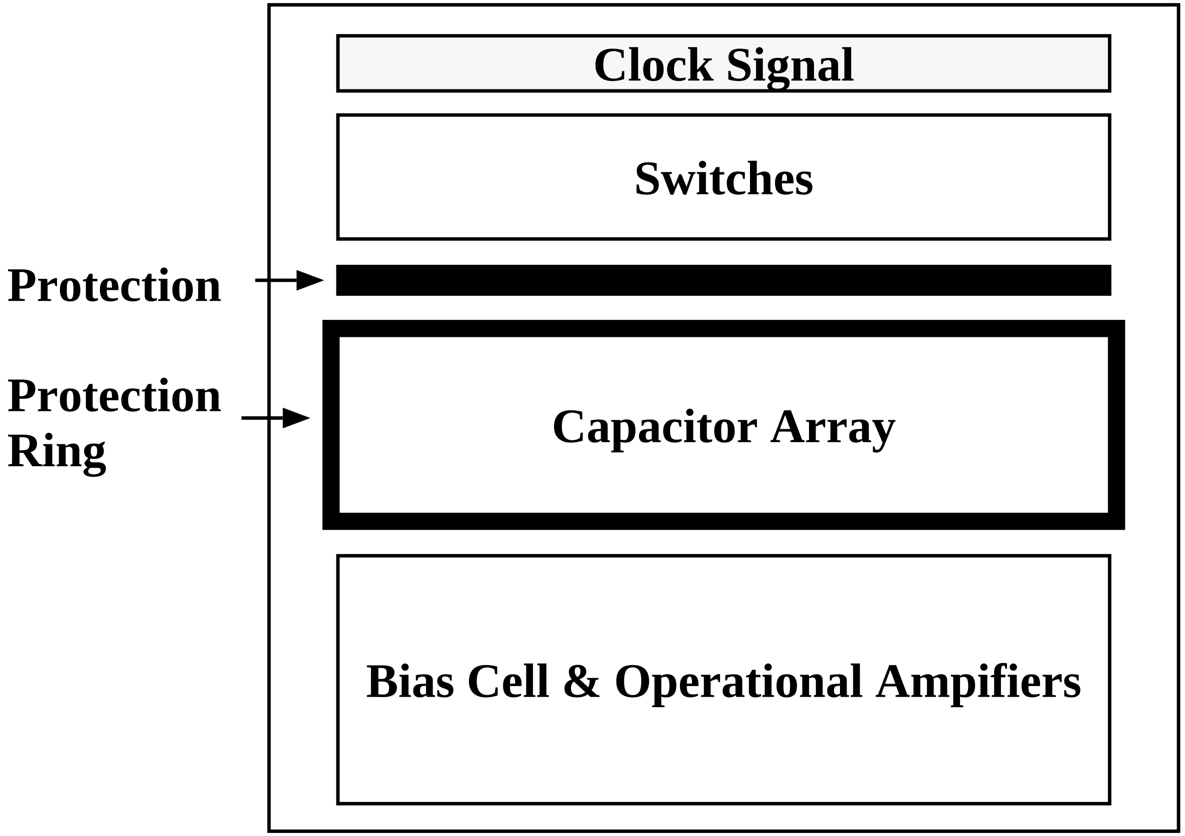


演算増幅器のレイアウトの例

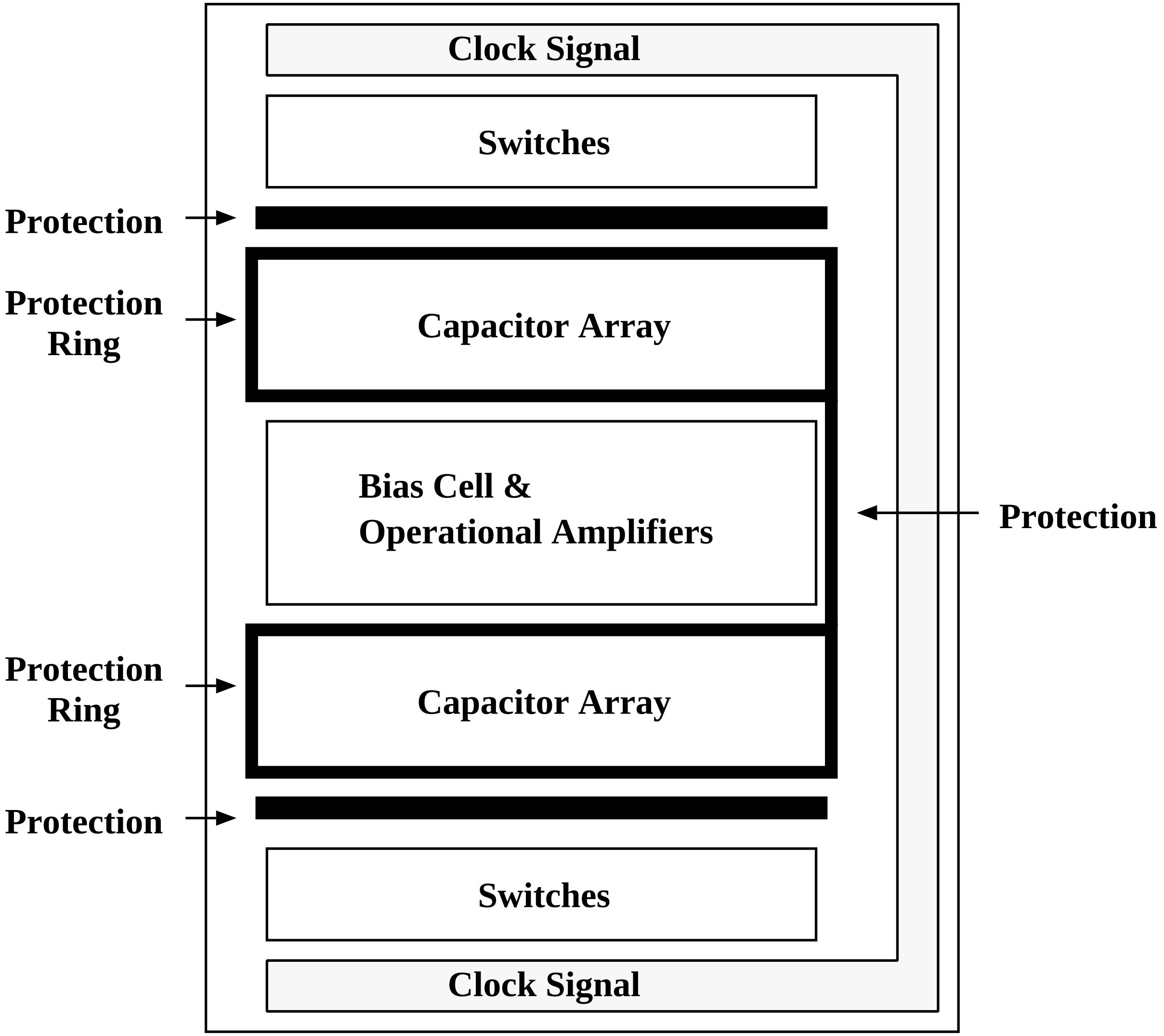




スイッチトキャパシタ回路のフロアプランの例(1)



スイッチトキャパシタ回路のフロアプランの例(2)



その他の注意事項

- ●未使用領域によるバイパス容量の実現
  →雑音の低減
- ●コンタクトの多用による基板抵抗の低減
- ●その他

実際のレイアウト例(フィルタアレイの場合)

フィルタ仕様

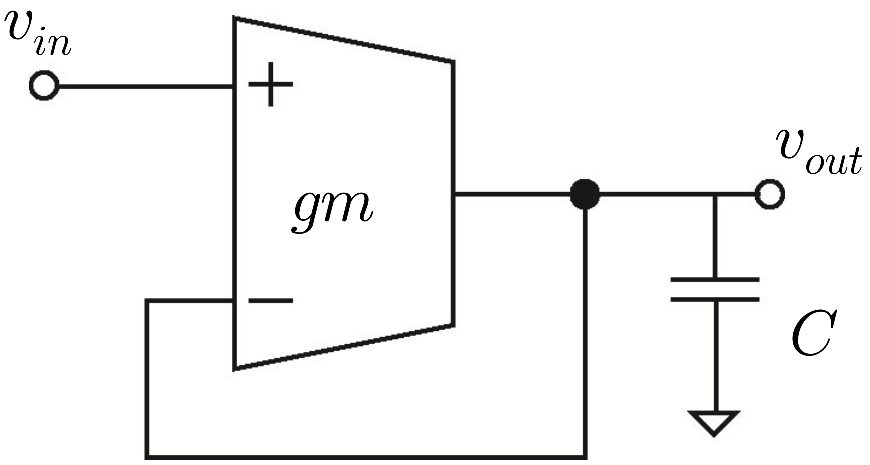
種類	低域通過型
帯域幅	20MHz
特性	Chebyshev
次数	5次
帯域内リップル	0.5dB
帯域外減衰量	40dB@40MHz

フィルタの伝達関数

$$T(s)=\frac{5.62\times10^{39}}{\underbrace{(s+4.52\times10^{7})}_{f_0=7.2\mathrm{MHz}}\underbrace{(s^{2}+7.41\times10^{7}s+7.58\times10^{15})}_{\substack{Q=1.17\\ f_0=13.8\mathrm{MHz}}}\underbrace{(s^{2}+2.76\times10^{7}s+1.64\times10^{16})}_{\substack{Q=4.64\\ f_0=20.4\mathrm{MHz}}}}$$

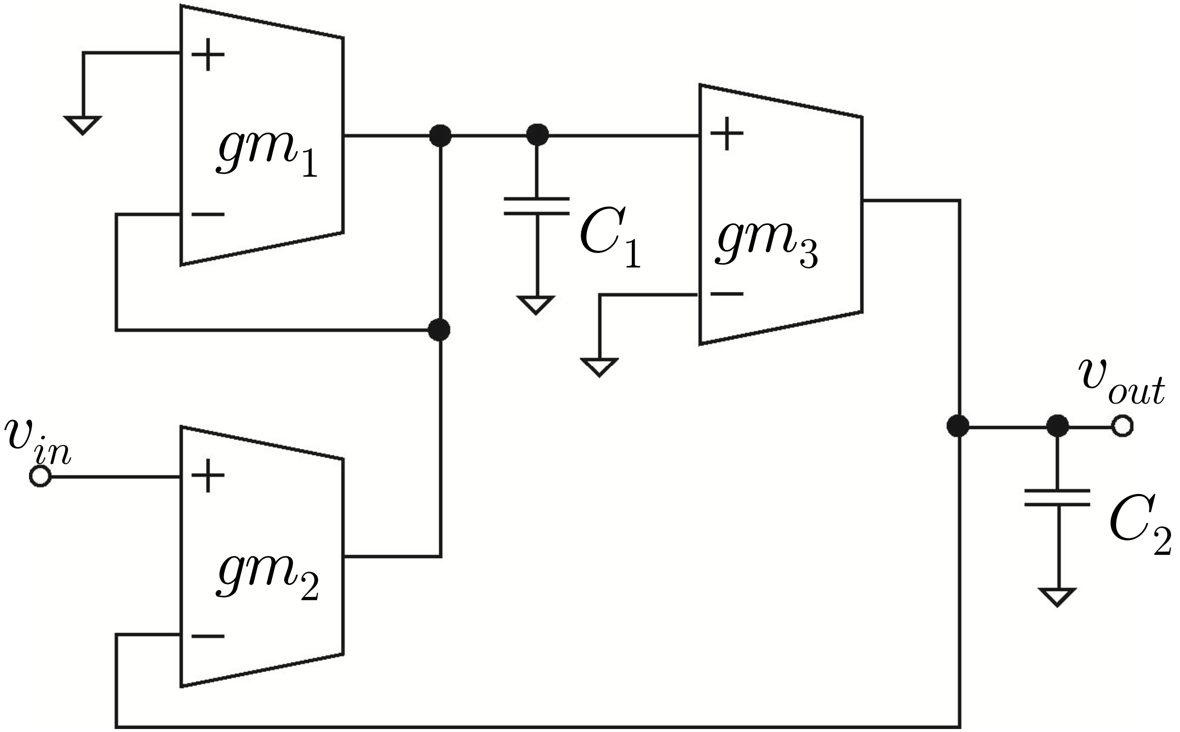
$$T(s)=T_1(s)T_2(s)T_3(s)$$

1次有損失積分回路



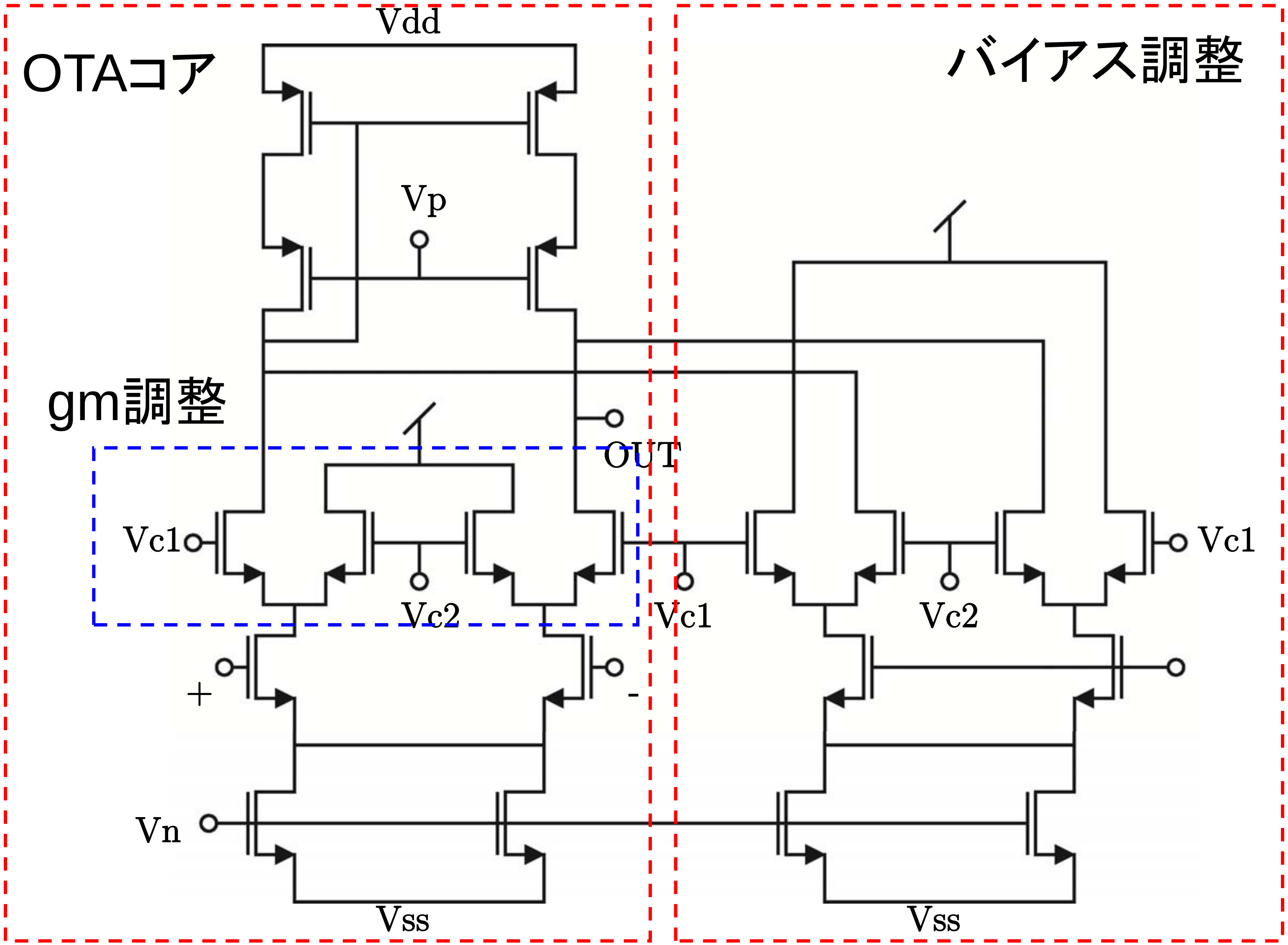
$$\frac{v_{out}}{v_{in}} = \frac{g_m}{sC+g_m}$$

バイカッドフィルタ

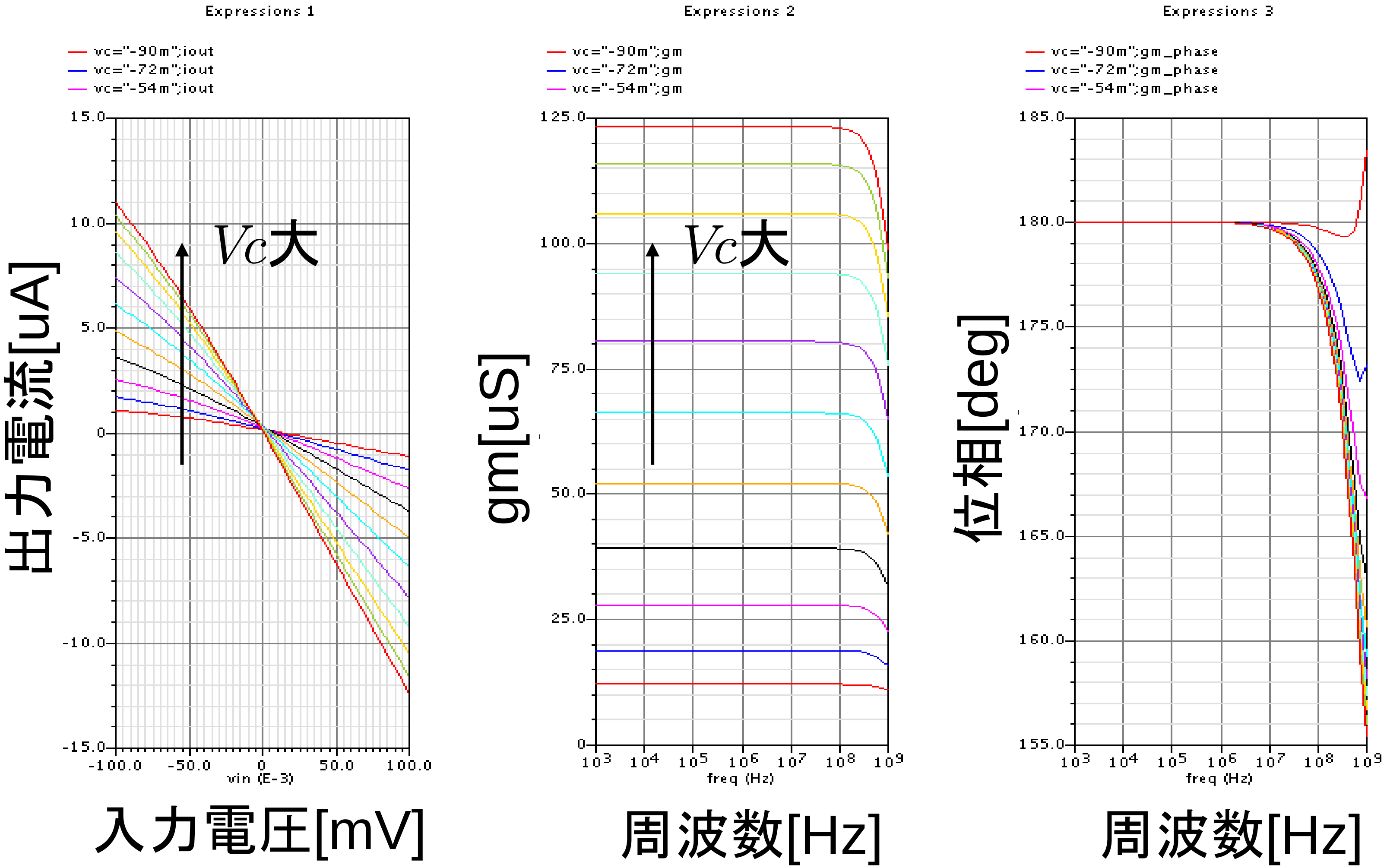


$$\frac{v_{out}}{v_{in}} = \frac{gm_2 gm_3}{C_1 C_2} \frac{1}{s^2 + s\frac{gm_1}{C_1} + \frac{gm_2 gm_3}{C_1 C_2}}$$

OTA



OTA特性（Vc=-90mV~90mV）



数値例（容量値一定、C=3pF）

設計値

g_{m0}=30μS ← 基本OTA

$T_1(s)$

g_{m1}=3g_{m0}

g_{m2}=g_{m3}=13g_{m0}

$T_2(s)$

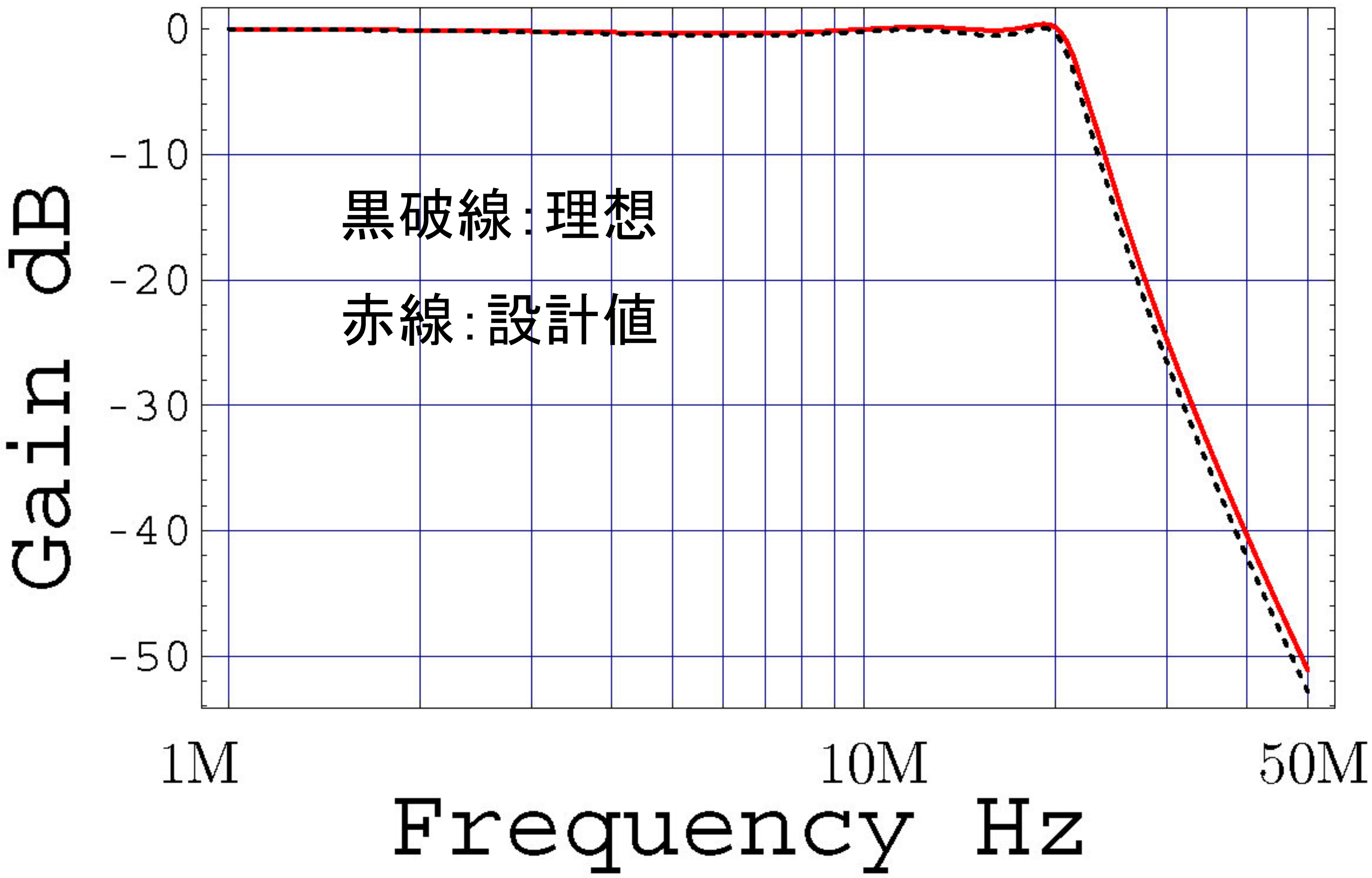
gm_1=8gm_0

g_{m2}=g_{m3}=9g_{m0}

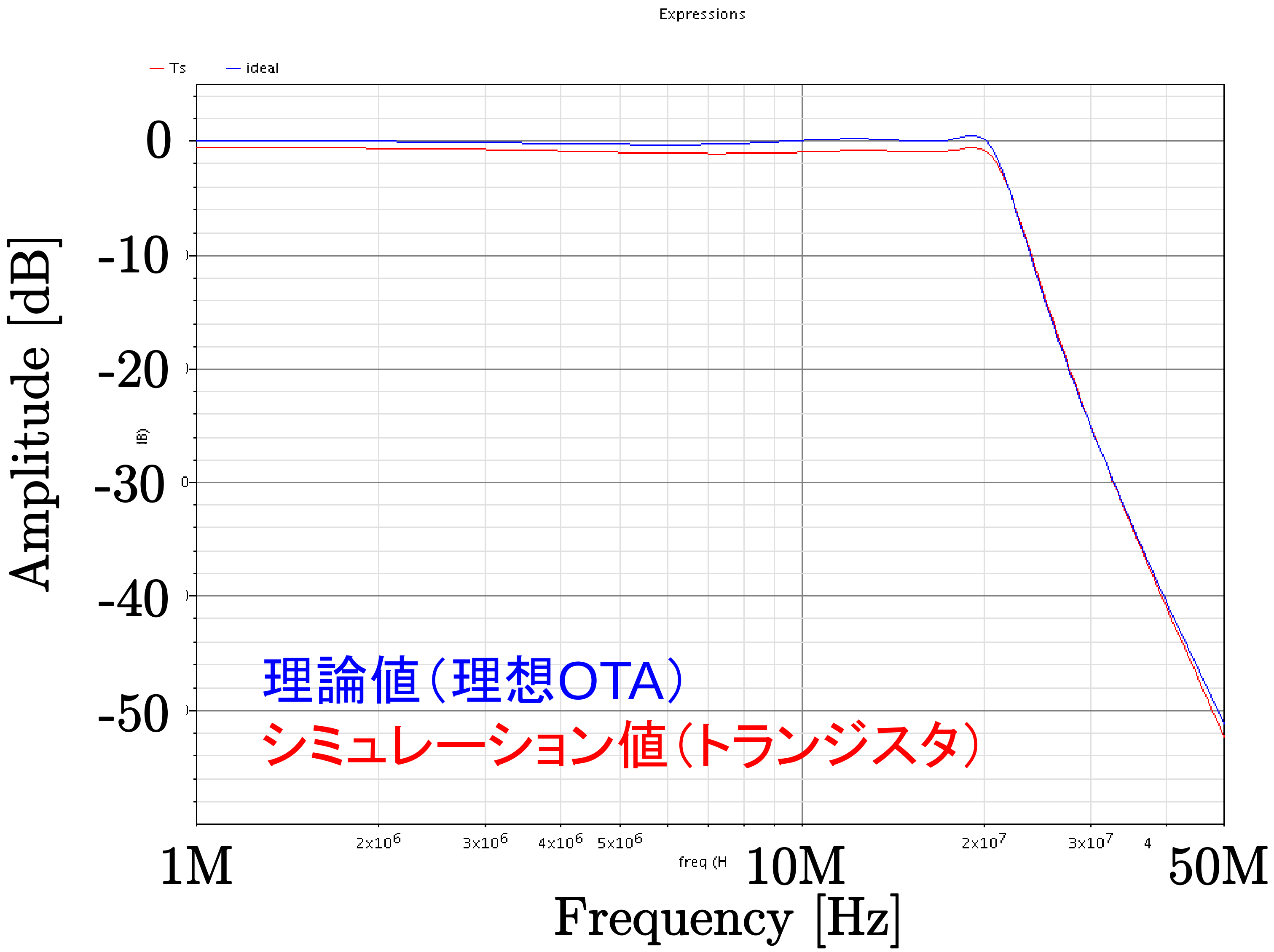
$T_3(s)$

g_m=5g_{m0}

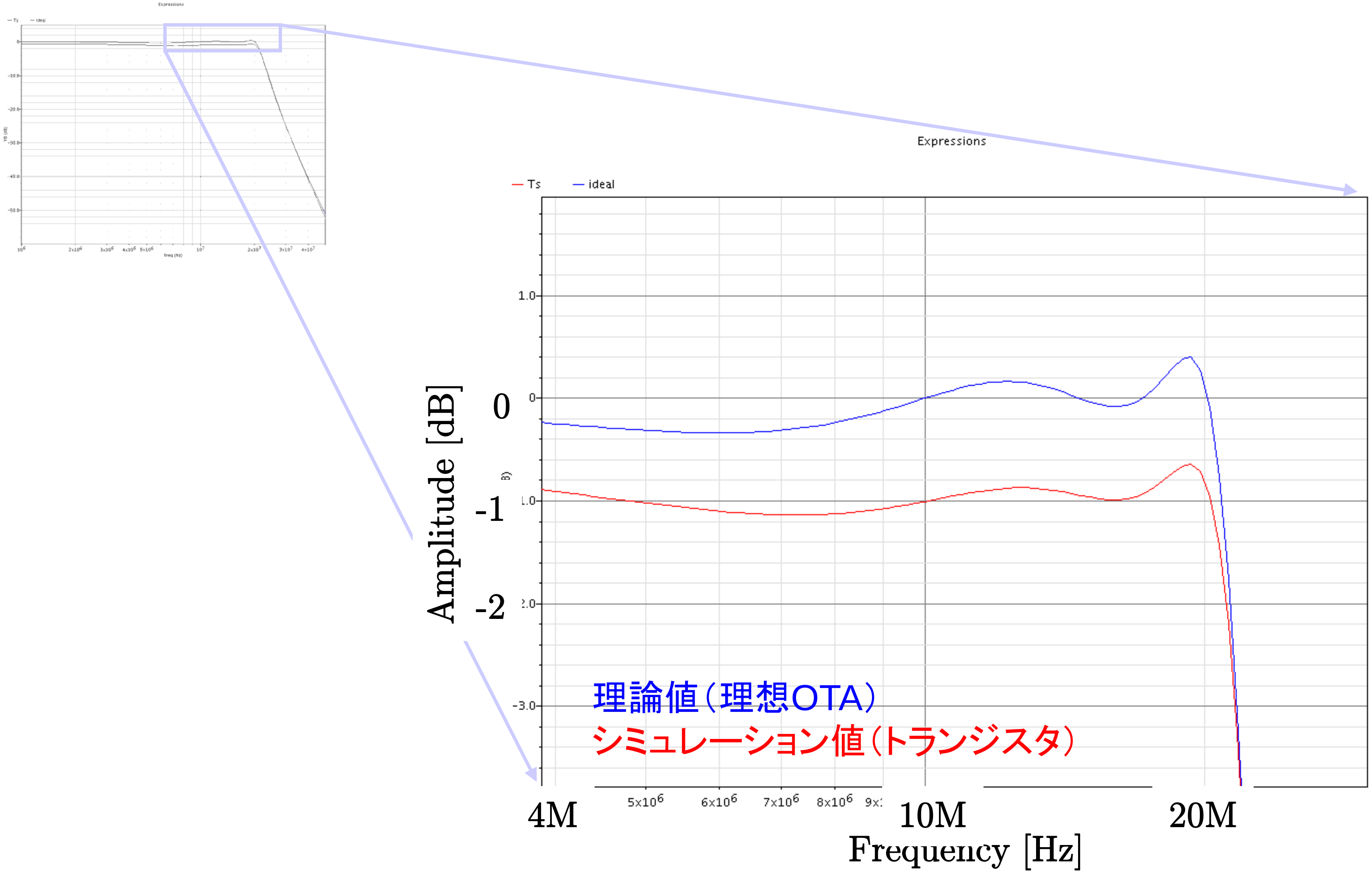
周波数特性(伝達関数)



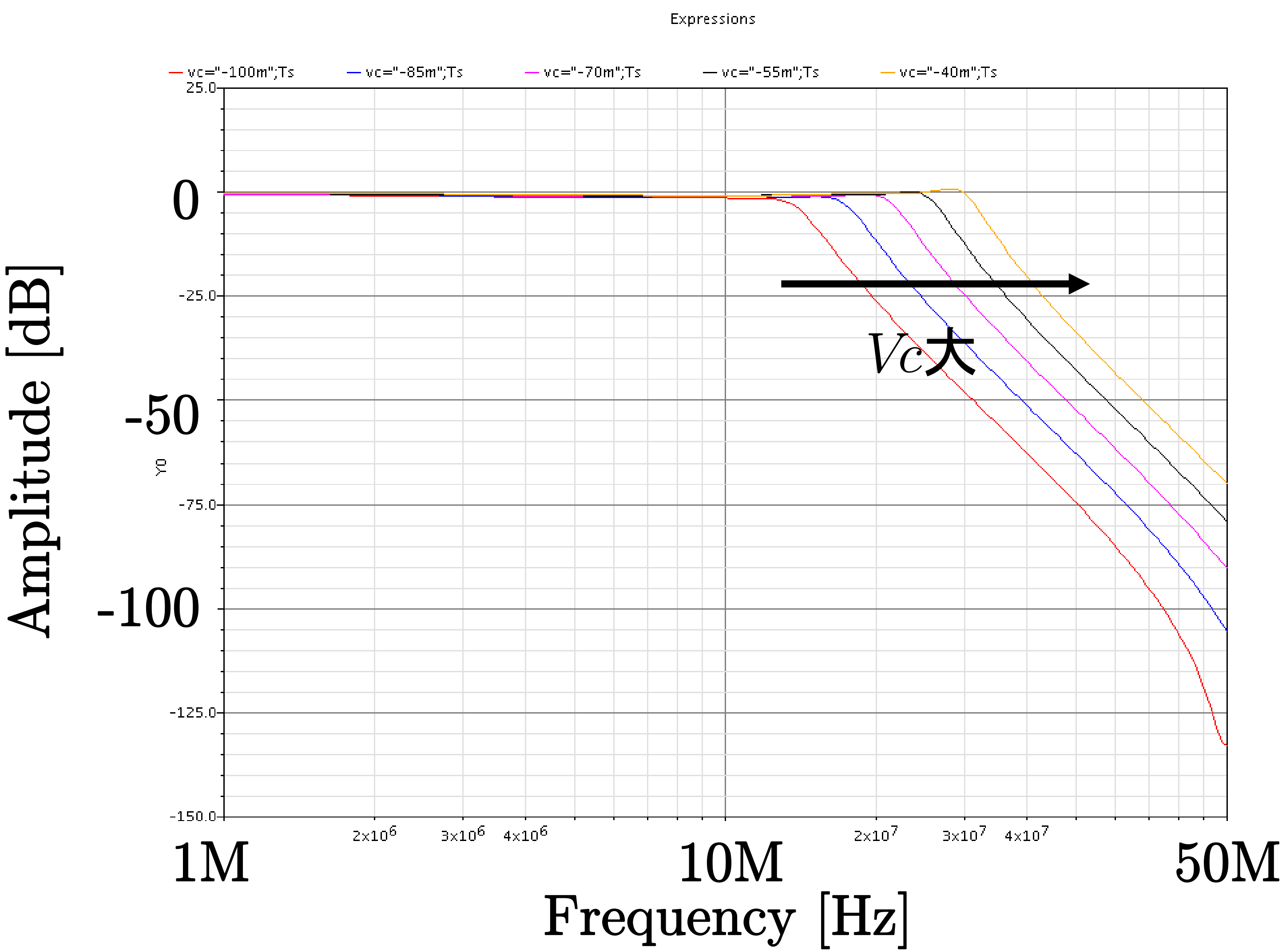
フィルタ特性（周波数特性）



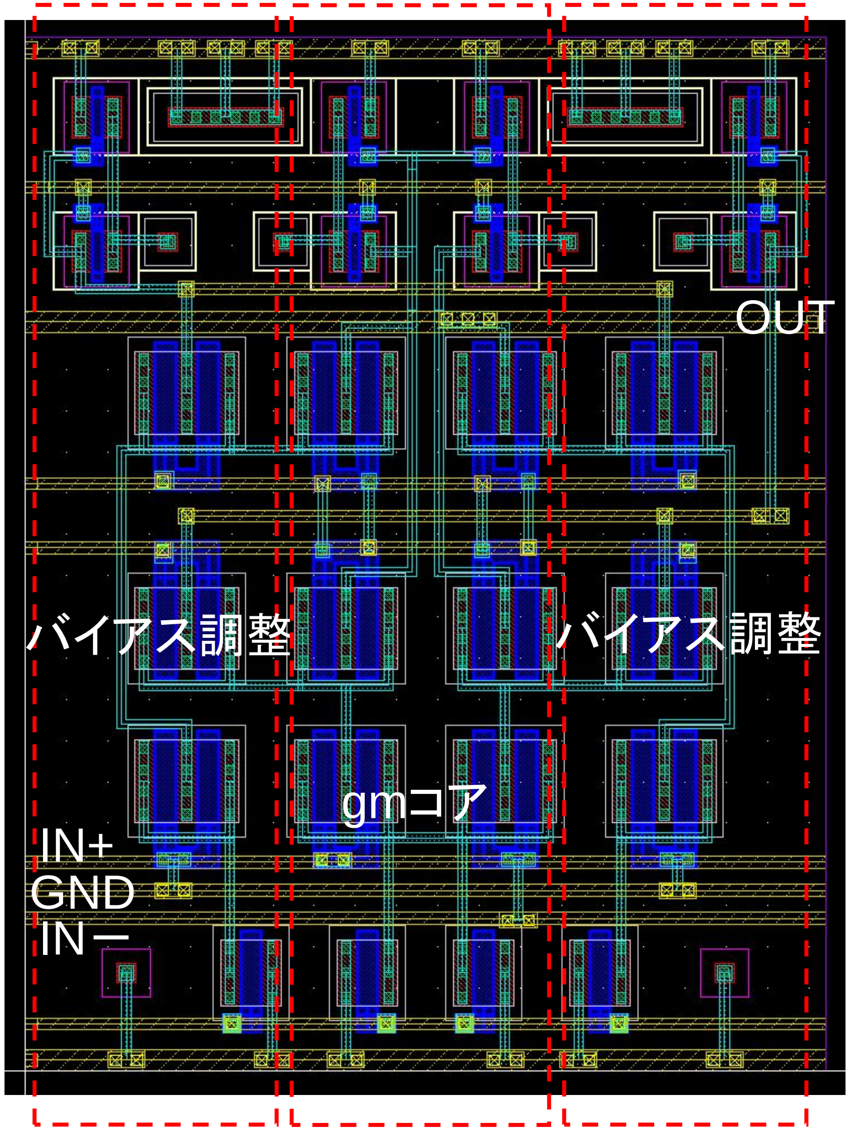
フィルタ特性（拡大）


Expressions
Ts
ideal
1.0
0
Amplitude [dB]
0
-1
-2
-3.0
4M
5x10^6
6x10^6
7x10^6
8x10^6
10M
20M
Frequency [Hz]
理論値（理想OTA）
シミュレーション値（トランジスタ）

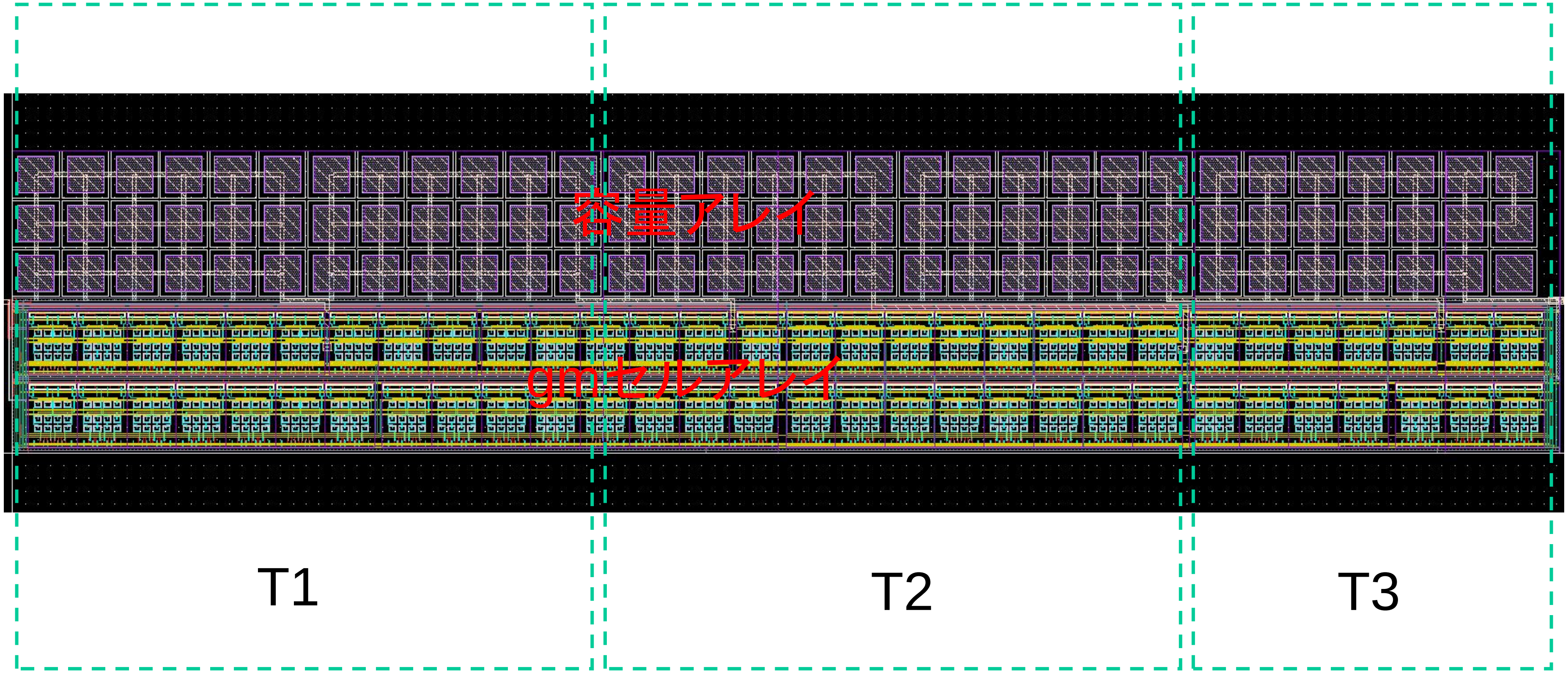
遮断周波数の調整(Vc=-100mV~-40mV)



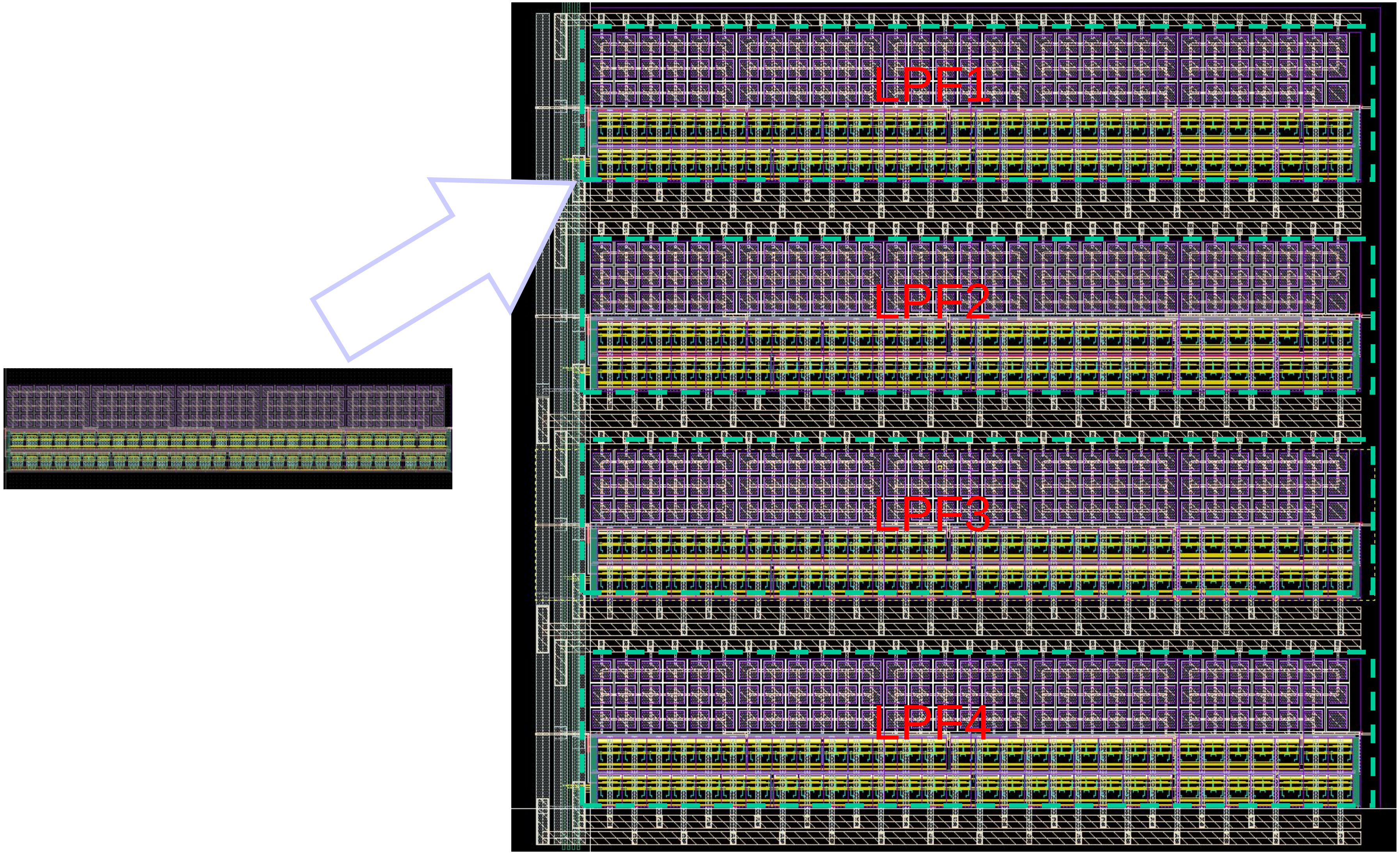
OTAのレイアウト



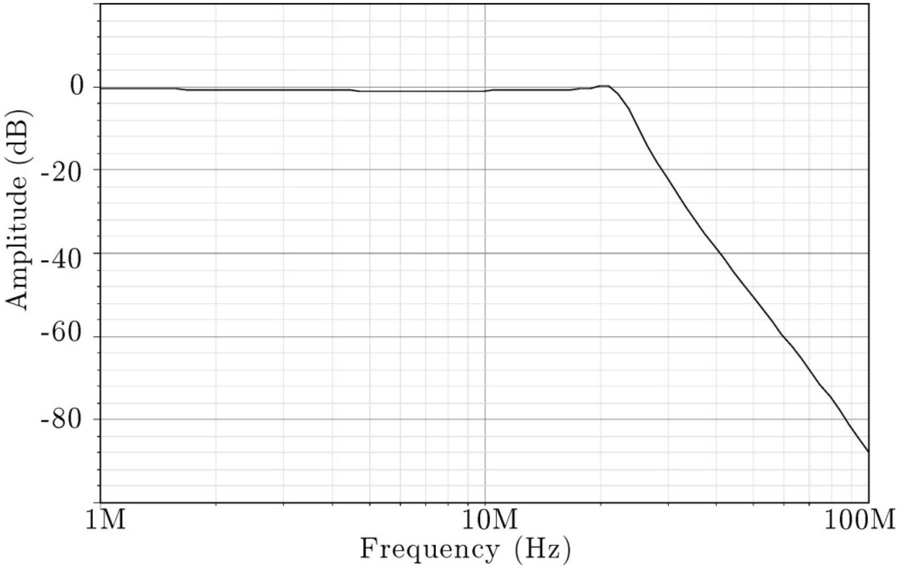
LPF全体のレイアウト



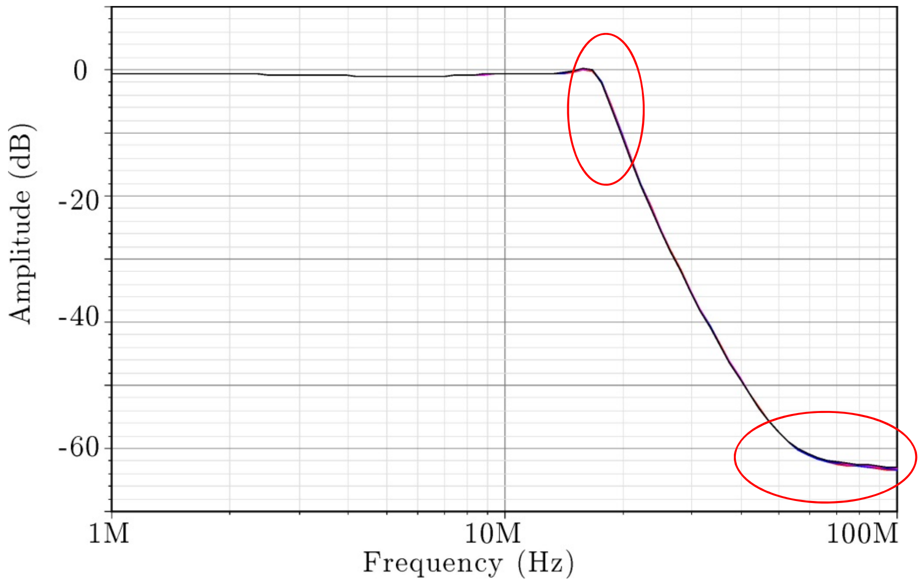
LPFアレイのレイアウト



シミュレーション結果
(フィルタアレイ＋バッファ＋パッケージ寄生素子



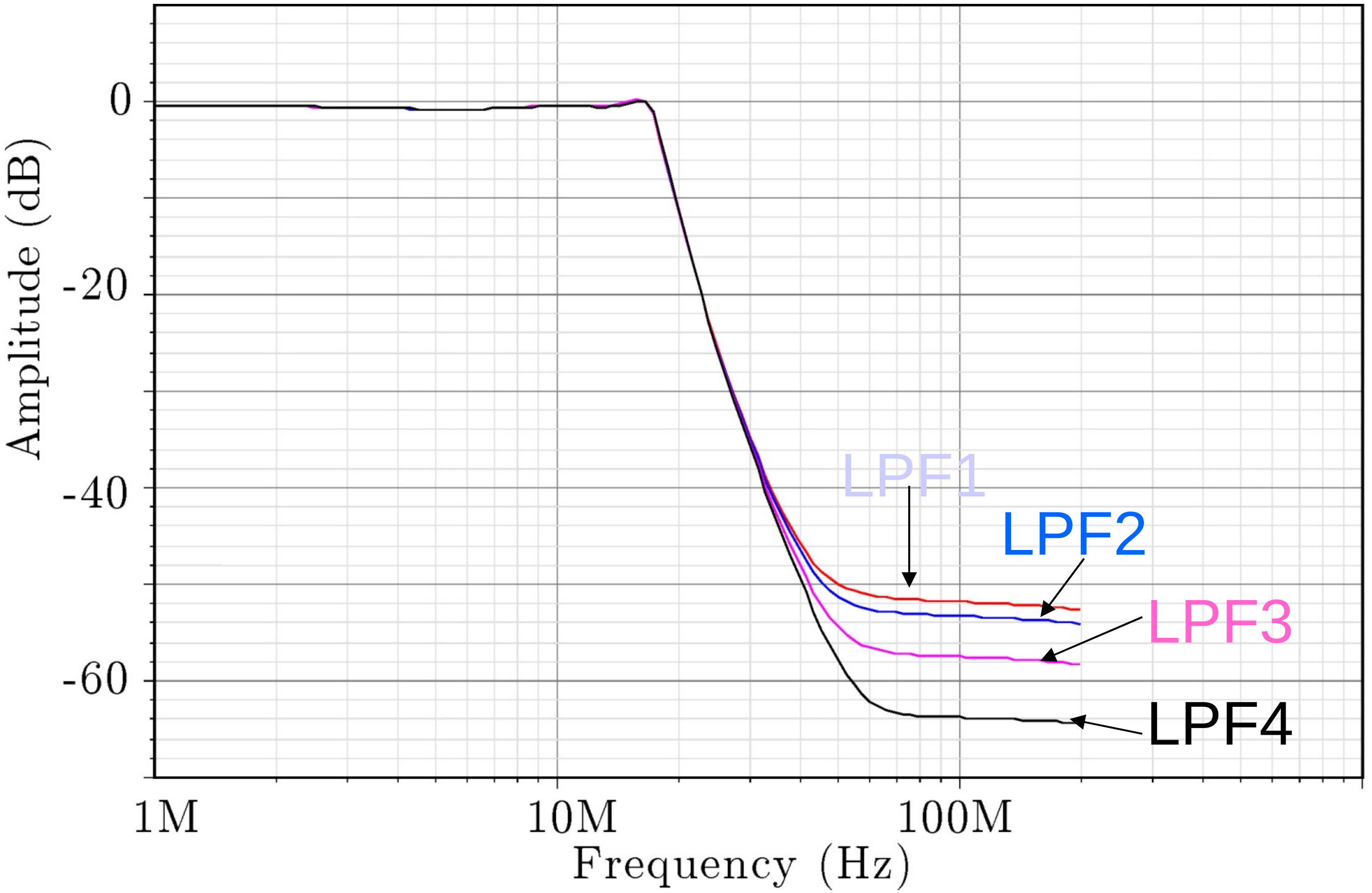
pre-layout



post-layout

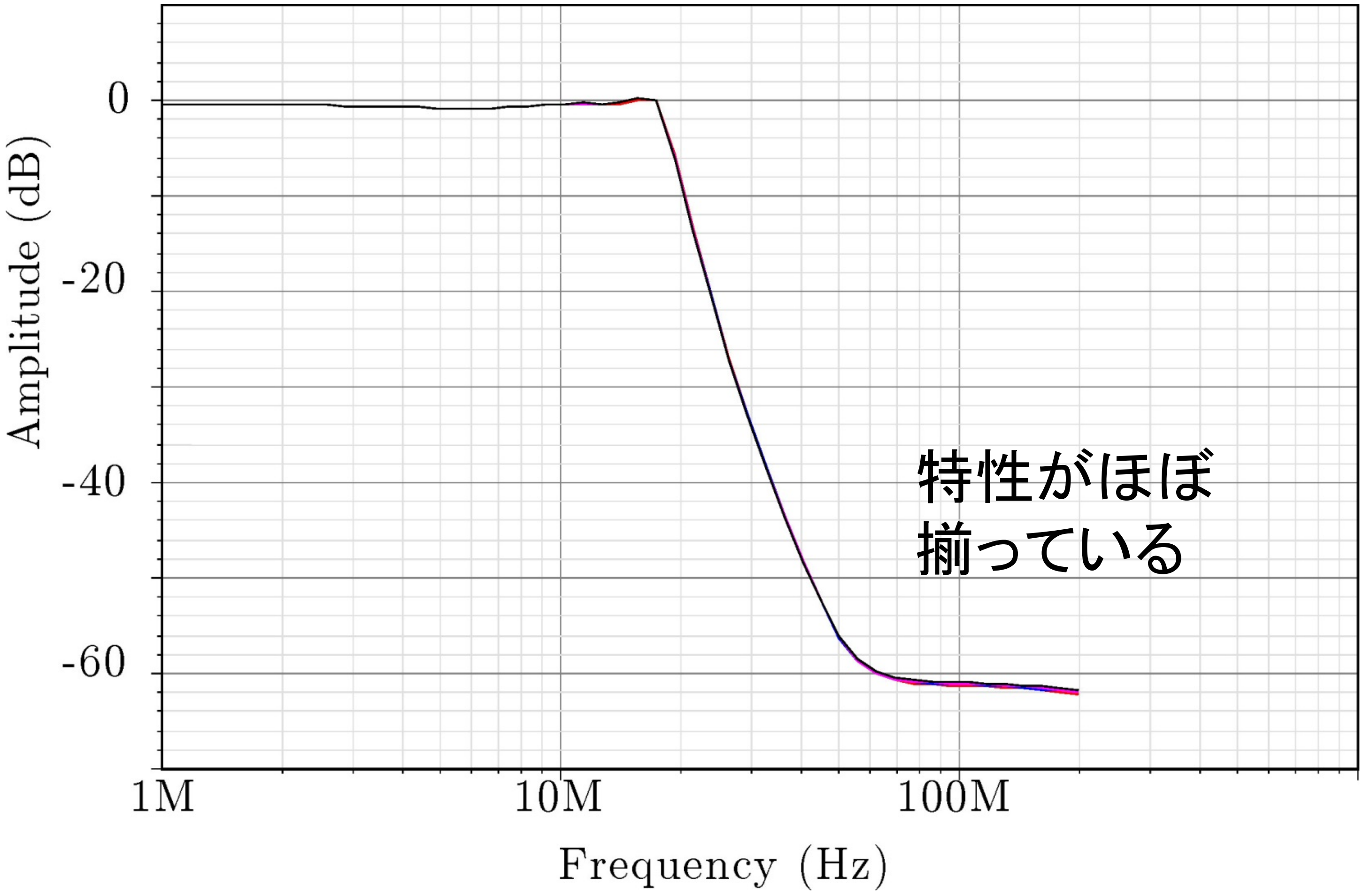
寄生容量と寄生抵抗による影響

ポストレイアウトシミュレーション（フィルタアレイ）
※修正前



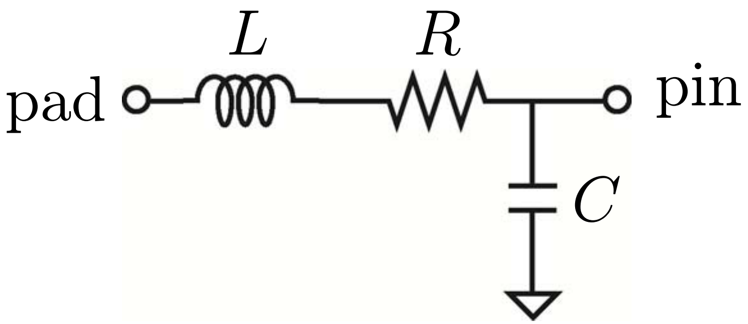
接地ラインや電源ラインの長さの差

ポストレイアウトシミュレーション（フィルタアレイ）
※修正後(接地ラインと電源ラインの長さを揃える)



特性がほぼ
揃っている

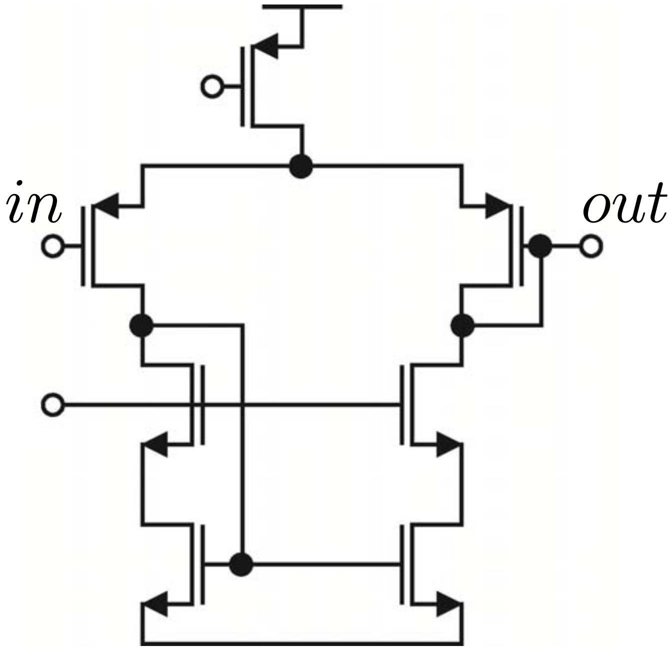
パッケージの寄生素子（QFP100）

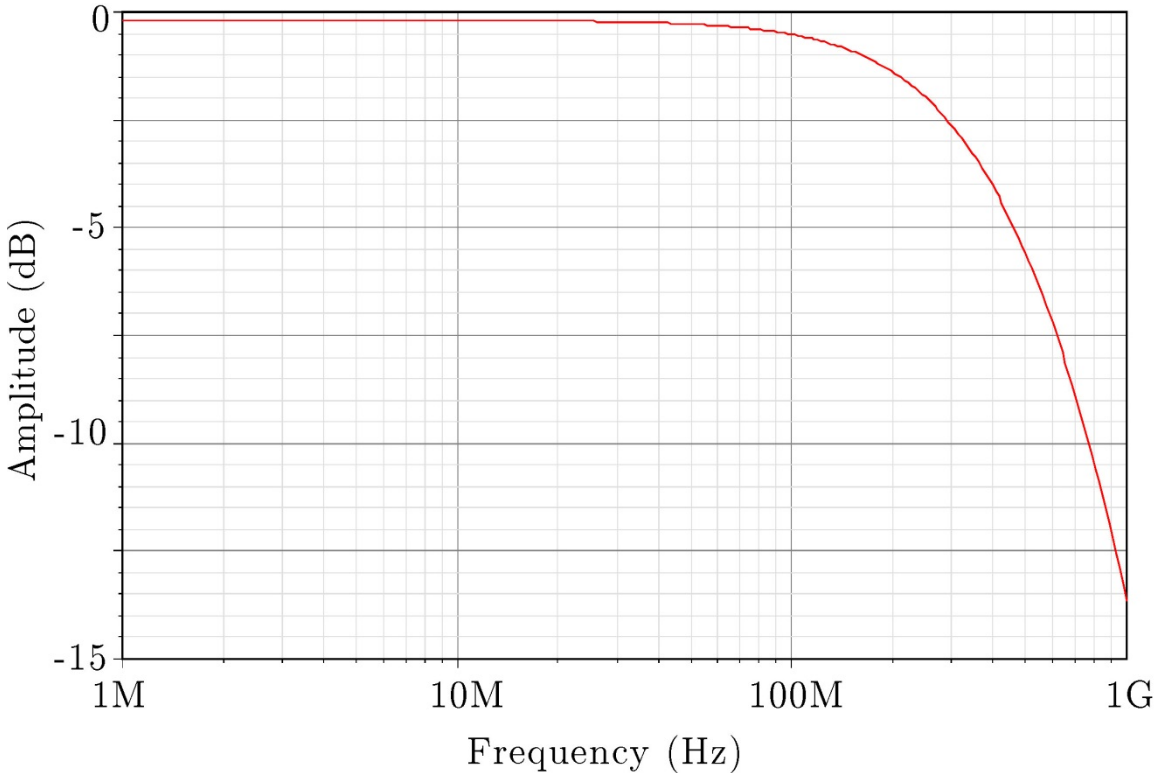


素子	素子値
L	2.7nH
C	1.5pF
R	70mΩ

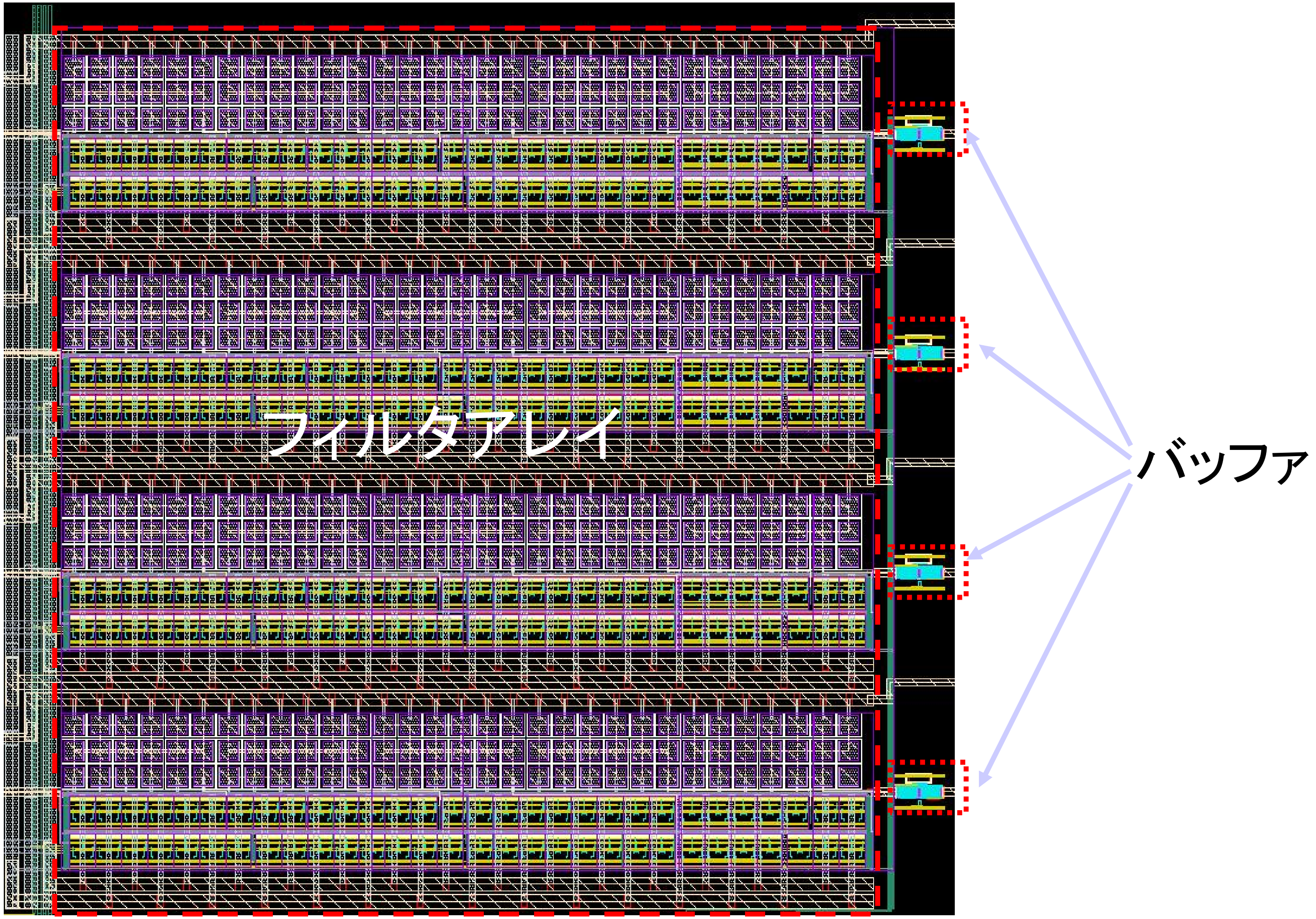
出力バッファが必要

バッファ回路構成(パッケージ寄生素子を含む)

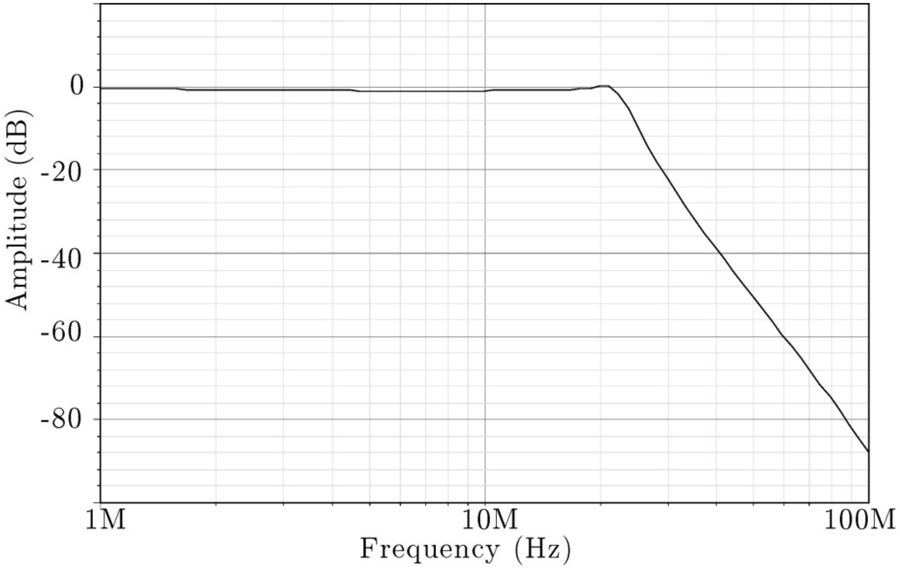




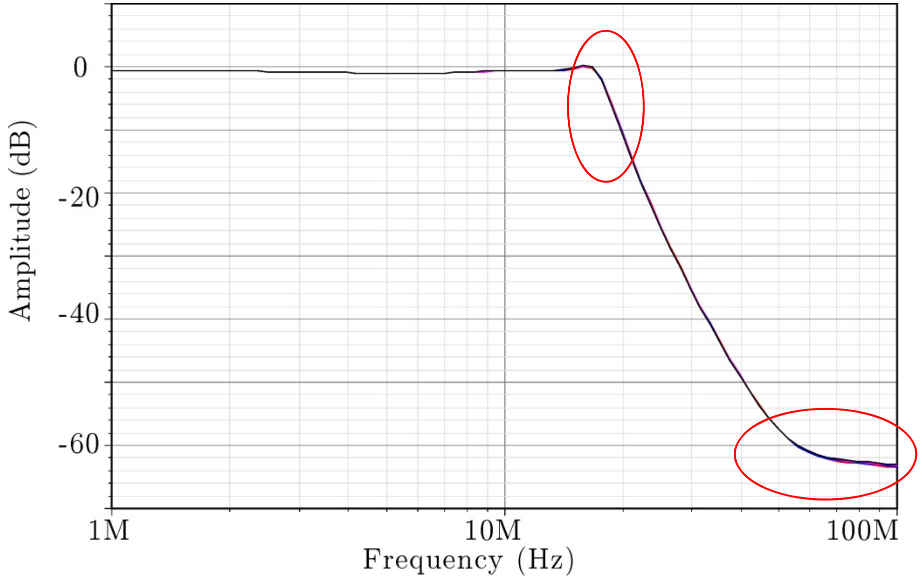
最終レイアウト（フィルタアレイ＋バッファ）



シミュレーション結果
(フィルタアレイ＋バッファ＋パッケージ寄生素子)



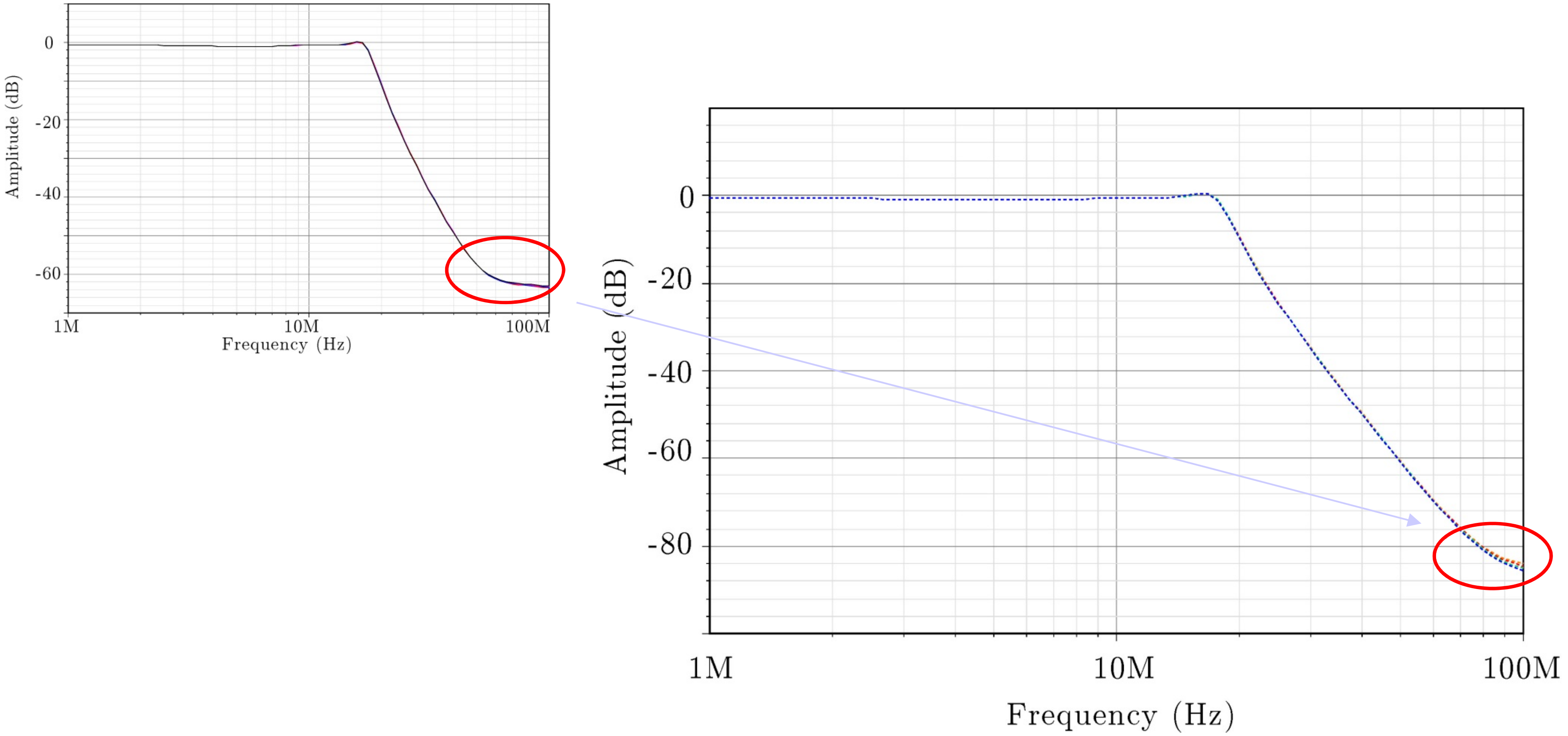
pre-layout



post-layout

電源配線抵抗が大

修正：電源配線を太く



0
-20
-40
-60
Amplitude (dB)
1M
10M
100M
Frequency (Hz)
0
-20
-40
-60
-80
Amplitude (dB)
1M
10M
100M
Frequency (Hz)